

あの日を忘れまい！

大震災から2年、質高めつつ各地で防災行事

「あの日を忘れまい！」。東日本大震災から二年、阪神淡路大震災から十八年。港区では三方を水に囲まれた「地理的宿命」（田端区長）の中、官の蓄積を生かし、民の創意を汲み上げ、質を一步一步高めながら、地域で、役所で、学校で、防災の取り組みが重ねられています。「マンション内での助け合いを」「災害時の医療を考えたおつ」とそれぞれの目的を持って取り組まれた二つの催しを取材しました（4頁にも記事）。

天保山第五コーポで訓練、独自マニュアルなど先進的取り組みも

「第五」コーポの皆さんおはようございます。

こちらは管理組合防災委員会です。本日、午前
十時より、「三三棟及び三三三棟の一階と二階にお

住まいの方を対象に、津波避難訓練と防災用簡

易トイレの説明を行います。お寒い中ですが、

いよいよこの時に備えるための訓練ですので、多

数の皆様の参加をお願いします」。二月二

十四日（日）午前九時半から二回、このような

放送が敷地内に流れ、天保山第五コーポ（築港

三丁目、三棟に計八二四戸、約千五百人が居住の「津波避難訓練」が始まりました。

◆「海溝型地震発生、津波襲来」

十時に集会所前に集まったのは、この日の対象である第一・三棟の各一・二階、計四十八戸のうち二十七戸。主催者を代表して管理組合・



→天保山第五コーポ管理組合防災委員会の呼びかけで行なわれた「津波避難訓練」は2月24日

杉田理事長、管理組合防災委員会・新田委員長があいさつしたあと、同委員会の川上委員が「本日午前九時ごろ、和歌山県沖の太平洋で海溝型地震が発生し、約一時間後に大阪港に津波が襲来するとの想定で、津波避難訓練を行ないます」と呼びかけました。これを受けて、参加者はそれぞれが居住する三階エレベーターホールへ、いずれもエレベーターを使わずに移動。階段ではヘルメットを着けた防災委員から「手すりにつかまって」などの注意がありました。

◆簡易トイレの使い方など学ぶ

三階では防災委員から、同階の倉庫二カ所に保管してある大小二つの簡易トイレに案内され、その使用方法について、①便器に排便袋をセットする②用を足したら凝固剤を振りかける③袋を取り出して袋の口を結び④可燃物として処分する一などの説明を受けていました。

◆液状化現象は港区で確実

このあと場所を集会所に移し、水上消防署による防災講話が行なわれました。近隣で緊急事態が発生したため担当の救急隊員が急ぎよ出勤する慌ただしの中で、上田司令の司会で、まず

←3階まで歩いて避難する参加者①と、水上消防署の防災講話を聴く参加者②



本下署員が講話。①直下型の阪神淡路大震災と海溝型の東日本大震災では揺れも被害も大きな違いがあった②港区の地理的・地勢的条件から海溝型地震で液状化現象が起ころのは確実との見通しを語り、「高齢化の中でいざという時に生きるのが地域の絆。口頭からの付き合ひ、助け合いを大切に」と呼びかけました。

◆大震災救援活動の体験語る

次いで、出勤から戻った砂川隊員が講話に立ち、東日本大震災の緊急大阪救助隊の一員として岩手県大槌町で救援活動に従事した際の記録写真をスライドで見せながら、当時の体験や思いや教訓を語りました。この中では特に、①

自動車の中に多くの犠牲者を発見し、直前まで運転していた様子が思われ胸が詰まった②大槌町の消防署跡では自分たちが使っているのと同じロープやヘルメットや外套を発見し「これが現実か」と言葉を失った③引き揚げる際、こちらの姿が見えなくなるまでお辞儀して感謝してくれた被災者の姿が忘れられない④必ず起きる大地震・津波に備え、自主防災組織に参加するなど、できる限りの備えをしておくことが、多くの犠牲者・被災者に報いる道だーなどの内容に、参加者は大きく頷いていました。

◆「私に構わず逃げなさい」

参加した女性（七三）は「東日本大震災のお話は何度聞いても胸が詰まります。今日は津波が来たらどう逃げたらよいか、簡易トイレが



→天保山第五コーポの倉庫に設置されている災害時の簡易トイレ（上は大形、下は小型）

どこにあるのか、それをどう使ったらいかなどが分かって良かったです。私は足が悪いので、周りの人たちには『私に構わず逃げなさい、引きずられてはなりません』と伝えています」と話していました。

◆独自の「避難マニュアル」作成

同コーポでは昨春以来、町会や防災委員会の主催で訓練を重ね、今回が四回目。また昨年末には同委員会が独自に「津波避難マニュアル」を作成。それには①震災発生前の準備②震災発生後の対処③津波避難ビルマップ④非常持ち出し品リストなどが六つ折りの紙一枚にコンパクトに収められ、住民から重宝されています。

◆独自の「対策本部」設置も

さらに同コーポでは災害発生直後の行動が既にイメージされており、津波警報が発令されたら直ちに理事会、町会役員・班長会、防災委員会、管理事務所職員から成る「津波対策本部」を立ち上げ、本部長には理事長が、副本部長には町会長が就任。同時に「津波避難所」も設置され、これらを管理組合と町会が一体で運営することになっています。

←天保山第五コーポ管理組合が独自に作成・発行・配布した「津波避難対策マニュアル」（上は表面、下は裏面）



◆助け合いで乗り切る

こうした住民募りでの取り組みは他の集合住宅や地域からも大きな注目を集めています。その先頭に立つ同コーポ管理組合防災委員会の新田泰司委員長や山田博之副委員長は、今回の訓練を終えたあと次のように話していました。

「私たちは『自分の命は自分で守る』という姿勢と共に、できる限りの住民でつぎが助け合い、危険を共に乗り切っていきたいと考えています。これから町会と力を合わせて訓練を重ね、他の地域の活動にも学び、また刺激を言いながら、三方を水に囲まれた港区全域の防災の質を高めていくことに貢献できたらいいと思っています」。

災害時の医療を考える

岩手の病院長招きフォーラム



→「災害時の医療や助け合いのあり方を皆で考えよう」と「港区防災フォーラム」に参加した港区民＝2月26日、港区民センター

「災害時の医療や助け合いを皆で考えよう」と2月23日午後、港区民センターで「港区防災フォーラム」が開催されました。東日本大震災での医療現場の体験についての講演や、災害時の医療についてのパネルディスカッションに、約三百人が熱心に耳を傾けました。

◆港区にふさわしい防災対策を

フォーラムではまず田端尚伸・港区長が二万人近い死者を出した未曾有の大災害・東日本大震災を改めて振り返りながら、南海トラフ地震を視野に、災害時の医療についての認識を共有できればと開催した。港区にふさわしい防災対策を共に考えていこうと呼びかけました。

◆妻に耐えた悲しみに耐えて

第一部は「災害時医療を考える」と題した特別講演。大阪船員保険病院（釜港）の別府慎太郎院長を座長に、一氏が講演を行いました。別府氏は「講演者の石木氏は大震災で奥さんを亡くされたが、その悲しみに耐えて医療活動を続けられた」「当病院の医師も半年間、陸前高田市で医療活動に従事した」と紹介しました。

◆生々しい被災・医療体験

講演ではまず岩手県立高田病院の石木幹人院長が「そのとき陸前高田では」と題し、スライドを映しながら、大要次のように語り、大きな感銘を与えました。

①被災前の陸前高田市は鷗が飛び、お祭りが盛んな美しい土地で、高田病院も綺麗だった。
②しかし病院は、一九八〇年のチリ地震で被災した場所に建ち、防災訓練では想定津波高を一階とし、三階に対策本部や備蓄倉庫を置き、人工呼吸器患者などへの救急対応ができないなどの問題点があった。

③大震災では生まれてから経験したこともない揺れが五分ほど続き、午後三時二十分ごろ津波が来るぞと放送があったが、その津波さえなければ特に問題はなかった。

④四階の病棟から見ていると、いったん気仙川の底が見えてから津波が押し寄せ、最初一メートルの波高がどんどん高くなり、速度も物凄くあつという間に堤防を越え、国道の車が次々と流されるのが見え、三時二十八分、三階は駄目、四階も駄目、屋上へ逃げようとなり、三時三十八分、屋上を残して、ほぼ水没した。

⑤入院患者五十二人中十二人が死亡し、三十九人を屋上へ搬出、職員七十四人、住民五十四人と共に夜を明かしたが、寒さが酷く、焚き火で暖を取り、トイレはカーテンで仕切った。

⑥翌朝五時五十分、スタッフで打ち合わせをし、できることをやり始めたが、十時ごろヘリでの救出が始まり、十六時ごろ完了した。

⑦聴診器もなく、話を聴いて「大丈夫だよ」と言っただけの診察から医療が再開された。

⑧三月十四日、避難所回りをし、まず救護所を立ち上げ、ミーティングを重ねた。

⑨三月二十日ごろ、全国からの支援者が張り



→特別講演で東日本大震災での陸前高田市の状況を語る石川県立高田病院・石木幹人院長

付いてくれ、職員も被災者であることを自覚し、初めて休みが取れ、私も二十日に取った。

⑩一方の大船渡病院は、災害時マニュアルが確立し、周辺道路も整備されていたのが役立って、マニュアル通りにすぐ対策本部を立ち上げ、トリアージ（症状の程度を見分ける作業）を開始、ライフラインや食べ物には苦労されていたが、重油を前日満タンにしていた幸運もあった。

⑪救護所では「死んだ人は仕方がない、生きている人を探し出して病院へ」を優先して活動したが、薬を求める声が殺到した。

⑫やがて仮設病院を立ち上げ、全戸ローラー作戦を開始、心のケアにも力を入れた。辞めたスタッフも三人いた。

⑬その後、被災地に米が稔るなどの明るいニュースが続き、病院もうでは被災前より良いくらいに体制になっている。

⑭この経験を通じて学んだのは、命を守る施設は被災の可能性がある土地に造らない▽通信が途絶えた状態を想定した訓練を▽日頃から連携できる病院を確保しておく▽エレベーターが使えないことや降ろす方が楽であることを考え

て物資は職員分も含めて最上階へ備蓄▽電源部は想定津波高より高い位置に▽ライフラインの確保を日常業務に▽ヘリが周辺地に着陸できないことを想定して屋上にヘリポートを▽いざ災害が発生したら早期視察で被災の全貌をつかみ行政と連携して早期に救護所を立ち上げ、薬剤と薬剤師の確保に全力を挙げ、住民の生活調査は言葉の問題があるので地元の人でーなどだ。

◆地方病院でも患者や住民と一体で

続いて府中病院（和泉府中市、三八〇床）の福廣吉男医師が「二地方病院の災害に対する取り組み」と題してスライドを映しながら講演。

①災害対策本部を立ち上げ、チェックシートを



→特別講演の座長を務めた大阪船員保険病院・別府慎太郎院長と、地方病院の防災の取り組みを語る府中病院・福廣吉男医師②

あさやけ

「ほんまにアナログテレビで『テオ録画』を
ましたわ」と読者から喜びの声が届きました。
一月号の当コラムでノーベル賞受者・山中教授
の「予想や仮説が外れた時こそ面白いことが起
こっている」の身近な例として挙げたことを早
速実践されたのです。果敢なチャレンジ精神
そして「もったいない精神」に心からの敬意を
表します（注①テレビはチューナー付き②予
約はできない）▼確かに、これまで「真実や」
「常識や」と信じて疑わなかったことが実際に
は「嘘やった」ということがよくあります。実
際にも今の社会が正しい常識や真実や民意の上
に築かれたのなら、こんな貧困や格差、戦争や
暴力で戻った返っている善がありません。ぜひ
一度、全てのことを、根本から、この世の初め
から、疑ってかかってみてほしいですよ。ええ
「忙しすぎてそんな暇なご」って、それで慌た
だしい現代社会で、陥りがちな思考パターン、
嘘に決まっています。その証拠にこの「ムム、こ

ません。町会長が石田の倉庫や并木の商業施設
などを『避難施設』と交渉してくれており、
三月十七日には防災訓練も予定していますが、
こういった積み重ねが大事。第三室戸台風などで
水害は体験していますが津波の経験はありません。
今日はその怖さや対策を教えて頂き、災害
時の医療の在り方も学ぶことができ、来た
甲斐がありました」と話していました。

◆地域の課題も見えてきた

同じく参加者の佐野耕司さん（磯路）は「磯
路では地域活動協議会を立ち上げ、その中に『あ
んしん部会』を作りました。私はその部会長で
すが、防災リーダーを組織したり、区役所や医
師会の参画も得て自主的な避難訓練をしたりし
て、対策を進めています。今日は高田病院長のお話
を聴いて、これまでやってきたことへの確
信が強まると共に、これからの課題も見えてき
ました。特にネットワークづくりの大切さを痛
感しました。また『自助』とは『自分が助かる

』といったものも、自分で助ける、いよであら、
それを土台にしてこそ共助や公助も生きるので
と改めて思いました」と話していました。

的な内容を盛り込んだアクションプランへと高
めていく。その中で、この四月に全地域で発足
する地域活動協議会のもと、地域ごとの防災計
画・防災組織づくりも進めていきたい」と語り、
既に発表している「港区防災計画（素案）」の概
要を説明。参加者に配った「わが家の『近所マ
ップ』『私の情報カード』を示しながら「情報は
特に大事。冷蔵庫に貼っていい」と呼びかけま
した。また「このフォーラムは石木院長と面識
がある別府院長の働きかけがあったからこそ実
現した」と感謝を表明しました。

◆付き合うネットワークを

これらの意見をまとめる形で金井氏は、自ら
の居住地や幼少期の体験も交えながら、いざい
ついつに備えて「普段から地域での付き合いを
積み重ねておくこと」「地域ネットワークを構築
しておくこと」の大切さを強調しました。

◆「津波の怖さ改めて」も参加者

参加者の一人、楠本紘子さん（田中）は「田
中は高い建物がないにもなく、年寄りは住めな
くないと思っています。主人は八十一、私は七十
二。いかも家は『階建』。今までの引っ越しでもき

「今まで読んだはりますやん。」

× × × × ×

「想定外の豪雨と平坦な地形が招いた」とは、一昨年のタイ洪水を報じたマスコミの決まり文句でした。が、根本原因はそんな自然現象にあるのではなく、①営利農業のため熱帯雨林が急速に破壊された②外国企業による工業団地建設で膨大な水田が失われた③無秩序な都市の肥大化で運河の大半が埋められた―つまり経済成長一本槍の国つくりこそあったことが、心ある学者によって指摘されています▼「えらいまた遠い国の忘れかけてた事を」と思われるかもしれませんが、どこい今の私たちにも関係あるのです。昭和二十一年から半世紀近い歲月をかけて区の九割近い土地を全面「高上げ」、戦災で焼失した市街地を再整備した「港地区復興土地区画整理事業」。港区民が世界に誇れるまちづくりの歴史として後世に語り継がねばならないことは論を待ちません▼が、その中で運河という運河をいって埋めてしまったのは果たして止しかったのか。高度経済成長とも重なる同事業。そこに産業優先、車優先の発想が

なかったか。効率的で環境に優しい水運を生かす手はなかったのか。防災面を考えても、水の逃げ場を失ったタイの首都バンコクの「二の舞」になりはしまいか。また妻と散策に訪れる地方都市などで水のある風景に心癒されることの多い経験からも「昔の港区は良かった」という古老の言葉が実感を伴って胸を突きます▼船買や沖仲仕ら水に生きる人たちが賑わった港町。その歴史に誇りを持つためにも、その内に居座る「常識」を疑ってかから、未来に向けて根本から検証することの重要性を感じます。

× × × × ×

「なぜ第二次大戦で三百二十万人もの日本人が殺されたのか」「なぜ敗戦が決定的な最後の一年間に犠牲が集中したのか」。毎日の「戦争体験」から誰もが抱く疑問です。「その日本が負けたからや」「日本の軍部がアホやったからや」「日本が戦争やめへんかったからや」といつのが「常識的」な答え。学校の歴史でもそう教えられてきました。ところが、そんな「常識」を覆す証言や証拠が次々と明るみに出て歴史家を慌てさせています。当時の杉山参謀総長の

メモ、天皇側近の手記、解禁された米国の機密公文書―などです。これらが共通して語る「大逆転の事実」とは「米側にとっては戦後の日本支配のため、日本側にとっては天皇制保持のため、共に日本人の抵抗力を徹底的に弱めることを目論んで、日米トップが合意のもと、意図的に終戦を引き延ばした」―確かに衝撃的です。が、悲しいかな人間の歴史とはそんなもの。権力を握る者はその保持のためならどれほど人命が失われようと意に介さないのです。それは文明社会数千年を貫く法則といってもいいでしょう▼そこで大事なことは、そうした歴史の口の中に生きる者として、「こんな人間社会の在り方は一体どこから来ているのか」を絶えず問い続けること。かつてポール・ゴーギャンは死の間際「我々はどこから来たのか、我々は何者なのか、我々はどこへ行くのか」と人類に問いかける絵を描きました。「この世の基本思想である」「資本主義」「弱肉強食」、更にその土台である「進化論」。これらへの全面的かつ根本的な検証が求められます▼え、そんな暇ないて？ 嘘や、この「リム」、最後まで読んでくれましてやん。

叫びたい！

今月の提言者

姉川 紀代美さん（60歳、磯路）



高齢者の自殺を考える

安心して暮らせる街づくりを

日本は世界でも有数の自殺大国です。OECD（先進七カ国＝日本・イギリス・アメリカ・フランス・イタリア・ドイツ・カナダ）では一位です。いじめによる自殺や年少化が目立っています。が、世界中で高齢者（七十五歳以上）の自殺が

大きな問題になっており、各国・各自治体でも対策が講じられています。そして色々なワーストから予想できるように、日本で自殺が一番多い地域は大阪です。

◆2つの事例

最近、私が勤める「みなと生協診療所」（磯路）で経験した事例を紹介します。

① 九十歳女性・変形性膝関節症

年々〇脚がひどくなり、市営住宅の五階までの昇降が困難になってきました。運ぶまで住んでいた所から数枚の建物の一階へ転居することが叶い、日常生活は楽になっていました。が、落ち着いたところへ、入れ歯を替えたことをきっかけに口腔内の違和感と乾燥を訴えられるようになり、口腔外科などを受診して人工唾液が処方されました。その後にも受け止め難い不定愁訴を訴えられておりましたが、自宅で自殺されました。独居でした。

② 八十九歳女性・高血圧症・緑内障・認知症

自宅で腹部を刺し、自殺を図りますが、幸い出血が少なく一命を取り留めました。三カ月前に引越してきていました。緑内障のため痛み

や視野狭窄が進み、自殺を図る前日には入れ歯が行方不明になり、パニック状態でした。

◆喪失感・孤独感から

引越しなどの大きな出来事のと、うつ状態になることがあります。高齢者の自殺動機は健康問題が半分で、身体的能力の喪失感が強い（重症）と思い込んでしまつ（こと）に加え、「もう老人なんだから」と、家族や身近な所でもきちんと受け止められないことがあります。

①の事例では、近距離間の引越しではあっても、不安が心身症になり、「このまま生きていても…」という気持ちになったのかもしれない。心身症的な訴えをうつ病として対応しようとした矢先の行動でした。

②の事例では、診療室ではいつも孤独感を訴えられていました。視野欠損が目々強くなり、慢性的なストレスから少しのことでパニックになり、死にたい欲求が高まったのだと思います。

◆地域の課題として

高齢者では慢性的な身体的苦痛が一つの引き金になる危険性があり、うつへの取り組みが自殺防止につながるという観点が不可欠です。ま

た高齢者では、うつ病の症状がそろっていない
ことが多くあることも忘れてはなりません。

高齢自殺者の九〇％以上が身体異常を訴え、
八五割が一般の診療所などに通院しているとの
調査結果があります。その意味では高齢者の
うつ病や自殺は精神科診療所だけの問題ではな
く、地域の診療所の課題といえます。まず受け
止める姿勢を示すことが大切です。

独居の高齢者が増える中、高齢者が安心して
生きるうえで暮らせる街づくり、地域で高齢者を
見守る仕組みが急がれます。

（あねがわ・きよみ 大阪きつがわ医療福祉
生活協同組合「みなと年協診療所」看護師）

子や孫に自分の人生をのこそう！

お話をききとり、冊子
にしてお渡しします。

島根県から上阪し、金属系企業で
働きながら労働運動にも力を注い
できました。全国的な運動退潮の
中、10数年前に第一線を退きまし
たが、この間の経験と教訓がいつ
の日か運動の再興に役立てばとの
思いから港新聞に相談し、冊子に
してもらいました。（70代男性）

400字（原稿用紙1枚）で
千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

青少年

学校選択制や中学校給食

子供の為にがんばるべきが

区政会議 子ども青少年部会で論議



→学校選択制や中学校給食について論議が交
わされた「子ども青少年部会」港区役所

「学校選択制」「中学校給食」など子供たちの
心身に大きな影響を及ぼす学校教育の在り方に
区民の意見を反映させるため、二月十一日、港
区政会議の「子ども青少年部会」(数井寿一部
会長)が港区役所で開かれました。七回目。

◆中学校は選択制へ、小学校は見送り

会合には委員や学校関係者ら十四人が参加。
まず「学校選択制」について港区役所市民協働
課から大要次のように区の方案が示されました。

1 小学校については平成二十八年年度からの
導入は見合わせ、話し合いや検討を続ける。「校
区外の学校の方が近い」など通学距離を理由に
校区外の学校を希望する場合には「指定外就学」
（居住地の校区以外の学校への入学・転校）の
基準（条件）を拡大緩和するよう対応する。

2 中学校については最短で平成二十八年度
から導入し、区内の全ての中学校から選択でき
るようになる。希望できる学校は一校だけとし、
各校の受け入れ可能人数を超える場合は抽選で
決める。居住区の学校へは必ず入学できる。

◆生徒が集まらない学校も

これを受けて、主二次のような感想や意見が

出されました。

『学校選択制のメリットの二つとされる『特色ある学校』について、(日本のどこでも均質の教育を平等に受けられる権利との兼ね合いで)特色とは何か、どんな分野でどの程度まで特色を出せばよいのか、全国的にも法的にも未整備な点が多く、もっと議論する必要がある』

『『行きたい学校』より『行きたくない学校』という選択が目立つようになると、地域にとつて良くない。(実施するならば)地域も学校も良くなるっていかないと意味がない』

「中学校に導入するとい色々な地域の生徒が混じることで生徒間のトラブルが増え、先生の負担が増すのでは危惧する」

「選択制には、各校が切磋琢磨してレベルアップするメリットもあるが、生徒が集まらないうちに出るデメリットも予想されるので慎重に考えるべき。市の中学校校長の間では(選択制よりも)まず指定外就学をいっしょに出すこと「難しい問題だが区の家でもやってみたらどうか。メリットもデメリットも明らかになる」
「やってみないと分からない」ともあるが、

(失敗して)傷つくのは子供。小学校の実施が見送られたのは良かった」

◆中学校給食は見送り

次に「中学校給食」について同課から「昨年から家庭弁当での選択制で実施したが、①食事として楽しめる献立②業者間でばらつきのない一定レベルの質の確保③主食の量の調節④アレルギーへの対応」などで改善すべき内容があるため、今年九月からの実施を見送り、平成十六年度以降の全貫喫食の導入について検討する(大要)との案が示されました。

◆味や安全を危惧

これについては主に次のような感想や意見が出されました。

「二十四区の区長が集まって(市が委託している)四業者の給食を食べ比べたが、量・質とも違いが大きい。内容に味気がないことに驚いた。これらの問題が劇的に改善されない限り、今年九月からの実施は難しい。実際、生徒の選択率も減っている」(区長)

「この学校の喫食率は特に低く、生徒アンケートでも九割以上が(全量喫食ではなく)家

庭弁当での選択制を望んでいる。味の(悪さの)

問題もあるが、髪の毛やビールなどの異物混入もある。保護者からも『病院の食事みたい』『デリバリーは味気ない』『小学校給食の二カ

月三千五百円に比べて一食二百円という値段は負担になる』の声が出た。見送りは妥当だ」

「子供について食べることは大事。できればみんな揃ってという形が良いが、安全が脅かされているのなら見送りはやむを得ない」

「改善内容」「安全」も含めるべきでは」

「お金がない(=正しい市財政の中で給食のための予算が十分確保できない)中で実施されようとしているところに問題がある」

「やるのなら(小学校給食のよう)きちんと施設を作ってやるべき。心が入っていない」

◆「子供について」をどう

その後、委員の一人は「中学校給食の安全が脅かされていることに驚きました。学校選択制には個人的には反対。子供は地域の中での育つべき。私たちの問題も『子供について何が一番良いのか』という視点を忘れず、これから議論に参加したい」と話していました。

障害あっても働ける！

面接会に2百人超、逆指名も



→様々な障害を持つ人たちが多数が来場し、活況を呈した「障がい者ティーンセントワーク面接会ー「みな」」は2月25日、港区民センター

「障害があっても働きたい！」。二月二十五日に港区民センターで開催された就職面接会には様々な障害を持つ人たちが多数来場し、大変な活況を呈しました。障害者の法定雇用率^{（こようりつ）}がこの四月から引き上げられる（民間で一・八→二・〇^{（割合）}）ことを受けて、港区役所が「障がい者の『働く』を応援しよう！」とハローワーク大阪西や管内企業、障がい者支援機関などと手を組んで企画した大阪初の取り組み。

◆近畿一円から各種障害者が

「障がい者ティーンセントワーク（持続性のある、働きがいのある仕事） 面接会ー「みな」と題されたこのイベントは午前十時から午後三時まで開催。近畿一円から視覚・聴覚・肢体・知的・精神・発達などの障害を持つ二百四十人（予想は百五十人）が来場。事務・製造・販売・経理・清掃・設計・倉庫作業・パソコン入力などの働き手を求める企業十八社が参加しました。来場者は、①求人一覧表から二社まで選んで「応募票」に記入する②受付に応募票（又はハローワークの紹介状）を提出する③呼び出されたら企業ブースに入るという流れで面接を受

けました。各ブースでは一人平均十数分の面接が次々と行なわれましたが、会場は、辛抱強く順番を待つ人たちの熱気で溢れ返っていました。

◆全国初「リクエストコーナー」も

また事前に申し込んでいた人には企業が逆指名して面談するという全国初の「リクエストコーナー」や、「精神障害者をどう活用するか」を本人ではなく支援者が企業に相談できる「リーナー」、「いきなり会社で働く自信がない」「まず生活習慣から身につけたい」などの相談に乗ってもらえる「リーナー」なども設置。「働く力の向上」をテーマにした知的障害者向けセミナーも開かれました。

◆「事務系」と発達障害男性

来場者の一人で、発達障害を持つ十九歳の男性は「高校を卒業して昨年秋に市内の職業訓練校に入りました。色々な訓練をしてもらいましたが、事務が一番向いていると思うようになりました。今日は一社に応募しました。生活できる給与・賞与があること、通勤にあまり時間がかからないこと、大勢の女性に囲まれると緊張するので男女比が半々くらいであること」などを基準に

選びました。力仕事や営業は苦手ですが、こつこつと同じことを繰り返すのは苦になりません。職場の人間関係に不安はありますが、何とかなるでしょう」と話していました。

◆元経営者の男性も面接に

また、視覚障害を持ち、夫人に付き添われて西区から参加した六十一歳男性は「酒類卸しや不動産賃貸の会社を経営していましたが、昨年一月に脳梗塞を患い、その後遺症で右目に障害が出て視野が六割ほどに狭まったため、やむなく会社を清算しました。まだ働けるので、職安の紹介で参加しましたが、運転ができず、長い文章も読めないのが、応募したのは清掃や倉庫内作業などです。これまで面接する側だったのが逆の立場になり、しかも若い人に色々と訊かれて戸惑ってしまい、失礼な言葉遣いなどしなかったかと不安です。今は妻、娘と三人暮らしですが、とにかく採用が決まっていればいいと思っています」と話していました。

◆大震災に遭った聴覚障害男性も

また奈良県から来た三十三歳の男性は、聴覚障害と言語障害があるので、筆談で次のように

話してくれました。「補聴器を付ければ僅かに聞えますが、無ければ全く聞えません。福島県いわき市で暮らしていましたが、東日本大震災に遭いました。幸い家は潰れず、津波も来ませんでした。父母や祖母が『お前は若いから（原発事故の）放射能が心配だ。関西へ逃げなさい』と言ってくれ、一人で移り住みました。そこから一年契約でパソコン入力の仕事をし、一年間延長してもらいましたが、この三月末で切れます。今日は同じ仕事ができそうな社の面接を受けました。絵が得意で、漫画コンクールで大賞をもらったこともあります。生活するのは難しいです。何とか採用が決まっていいます」。

◆「経理の仕事」と右足障害女性

また、右脚に障害を持つ西成区の二十代女性は「二年前まで正社員で、その後続けていたパートを一カ月前に辞めました。経理の仕事をしていたので、今日も経理の面接を受けました。主人は正社員ですが不安定。一人で働いて生活を安定させたいです」と話していました。

障害者「二情報」

障害者相談所「ほのぼの」

毎月第三火曜十

四～十六時、八幡屋商店街のヤハタヤ・プラザ（ほのぼの休憩所）で、港区障害者地域自立支援協議会事務局（障害者福祉の連携チーム）のメンバーが、障害者や支援者の話を聴き、アドバイスする。①障害者手帳を取得する方法②使えるサービス・制度の紹介や手続き③職場の人間関係への対応④作業所の紹介⑤就職活動のサポート等々。問い合わせは港区保健福祉センター・保健福祉担当（TEL六五七五・九八五七、FAX六五七二・九五二四）へ。

ワークみなと「東北食品市」

東日本大震災

で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が震災前の地元産材料、宮城県産材料、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第二・第四火曜十五時半から（売り切れ次第終了）▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所（夕田一六・三、TEL六五七一・七五二一、FAX六五

五六・九〇二〇。

■港ひかり作業所「手づくり品・レザークラフ

ト」 小銭入れ＝五百〇六百元▽キーケース＝
五百〇千円▽カードケース＝四百円▽レザーハ
ンド＝三百五十円▽ペンケース＝七百円▽キー
ホルダー＝三百五十円▽めがねケース＝千円▽
小物入れ＝千〇千三百円▽（従港ひかり作業所
は池島一・四市宮住宅内）TEL六五七四・二
四二五、FAX六五七一・二五九〇。

■生活介護あゆみ作業所「手づくり品・トル

ペイント」 ウェルカムプレート・袋物・和柄帽
子など＝三百円より▽あゆみ作業所は指定障害
福祉サービス事業所（築港三・一〇・一八、T
EL・FAX六五七一・〇七二四）。

■ワークみなと「手づくりお菓子・印刷」

りんごケーキ・パイナップルケーキ＝百円▽くる
みゆべし＝百円▽封筒印刷（長さ、千枚以上）
＝一枚十円（応相談）▽はがき（十枚から）＝
一枚二十円（応相談）▽名刺（口〇入れ可）＝
百枚千五百円より▽カラー名刺（口〇入れ可）
＝百枚二千五百円より▽ワークみなとは就労継
続支援B型の指定障害福祉サービス事業所（夕

田二・六・三、TEL六五七一・七五二一、F

AX六五五六・九〇二〇）。

■グリーنز・グリーンスロ「ベジタブルレス

トラン・手づくりお菓子・弁当など」 ビュッ
フェスタイルの昼定食＝八百円▽パウンドケー
キ＝三百円▽豆乳プリン・寒天ゼリー＝三百
円▽日替わり弁当（月〇水曜日に港区内配達）＝
五百円▽オードブル＝応予算▽グリーンスは就
労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所
（築港三・一〇・七、TEL・FAX六五七四

・一九二〇）▽グリーンスは就労移行支援の
指定障害福祉サービス事業所（築港三・一〇・
一一、TEL・FAX六五七一・八三三八）。

■マーガレット工房「コンピュータ作業・Tシ

ヤック製作・手づくり品」 ホームページ作成な
ど＝応相談▽少量向きプリントTシャツ＝千円
より▽Tシャツ製品＝四百円より▽マーガレット
工房は地域活動支援センター（田中二・一・
一六、TEL・FAX六五七六・二八四〇）。

■ふらっと「手づくり品」

クッキー＝三百
円より▽雑巾＝二百五十円▽ふらっとは地域活
動支援センター（夕田二・一・一八、TEL・

FAX六五七五・二二五五）。

■ゆづ美波途「手づくり品・レザークラフ

ト」 マグネット（花型・帽子型）＝百円▽ア
クリルタワシ＝三百円▽お手玉＝百円▽ブック
カバー（レザークラフト）＝千円より▽革製品
色々＝三百円より▽ゆづ美波途は生活介護
就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業
所（三先二・二・五、TEL六五七一・一一
九、FAX六五七一・二二四一）。

■手と手とハウス「買もの者の手作り品」

藤作
品・紙ひも作品（小物入れ・牛乳パック椅子な
ど）＝四百円より▽点字用紙リサイクル品（ティ
ッシュカバー・靴型小物入れ等）＝二百円より
▽アクリルタワシなど小物＝五十円より▽手と
手とハウスはNPO法人大阪買もの者友の会が
運営（波除五・四・一八・一F、TEL六五八
五・三〇三二、FAX六五八五・三〇三五）。

■NPO法人ナポレオンフィッシュ「下請け作

業」 内職・軽作業＝応相談▽NPO法人ナポ
レオンフィッシュは就労継続支援B型の指定障
害福祉サービス事業所（磯路三・一九・四・五
B、TEL・FAX六五八八・九三三四）。

日常生活全て支える ヘルパー派遣制度に 見直し求める動き区内でも

「少しでも報酬があるというだけで外出時にヘルパーさんを利用できず困っている」「入院したとたんにヘルパーさんに来てもらえなくなった」。様々な制限があるためにヘルパー利用をあきらめざるを得ない障害者・高齢者から「日常生活すべてを支えるヘルパー派遣制度にしてほしい」という声が上がっています。

中でも全国の肢体障害者の集まりである「全国肢体障害者団体連絡協議会（全国肢障協）」では、現行のヘルパー派遣制度の抜本的な見直しを求めて国会への請願活動を展開しています。

とりわけ同会が「問題だ」と指摘しているのは、①病院への通院・入院中のヘルパー派遣や院内介助が認められていない（院内介助は市町村自治体等が認める場合もあるが、ほとんどの場合は認められていない）ことから、医療を受けるという重大な場面でも自分のことをよく理解

しているヘルパーの支えを得られない②障害者福祉では生活全般を支える重度訪問介護サービスがあるが、通勤や就労、また通年や長期の外出が制限され、障害者の社会参加が阻まれていくという実態です。

こうした現行のヘルパー派遣制度を一刻も早く見直し、障害者や高齢者の「生きる権利」が保障されるよう、同会では現在、国会に対して次の内容で請願を行なっています。

①通院時の院内介助や入院中のヘルパー派遣を認めてほしい

②重度訪問介護の利用制限をなくし、通学・



→相談支援専門員などの活動が制限されて困っているMさん（手前）。「国は障害者が社会活動を持続けられる条件を整えてほしい」と訴える

通勤・就労・入院・外泊・運転などにも利用できるようにしてほしい。

◆障害者の社会参加を認めて

同会メンバーで港区に住む五十代のMさんは自らの体験を踏まえ、次のように訴えています。

「相談支援専門員やケアマネの資格を取り、パートですが相談事業所で働いています。しかし、わずかでも『報酬がある』ということだけで相談者の家に訪問するなどの活動にヘルパー利用が認められません。これでは『障害者は働くな、社会参加するな』と言われているのと同じ。早く見直してほしいと切に願っています」。

同会ではこの請願活動への区民の協力を呼びかけています。協力内容には署名と「フロンライン」募金があります。問い合わせは同会まで。

全国肢障協 〒169-0072 東京都新宿区大久保一・二富士ビル四階 ☎〇三・三〇七・五六三七 FAX〇三・三〇七・五六三八 メール：zenkokoku-shiishokyo@shoogai-sha.jp ホムページ：http://shoogai-sha.jp/zenkokoku-shiishokyo/

才能について

(池島・勝部泰臣79歳)

テレビの「お笑い一人芸ランプリ」。何と三千七百人近くエントリーしていたそうだ。かのビートたけしの本に出てくる言葉「自分に才能があるかないか、それを見極めるのが才能だ」。若い芸人向けの発言だが、一般人にも当てはまる至言だ。

学校の先生はもとより、保護者もその子の才能をいち早く見つけてやり、それを伸ばしてやる。何でもかんでも平等は民主主義をはき違える悪用だ。才能の発見、それこそが教育だと思つが。

名演説家・田中角栄元総理がよく引用した諺に「駕籠にのる人担ぐ人そのまた草鞋をつくる人」。この歳になると、過去をふり返つてやたら思い浮かぶ言葉だ。分相応、一升枰には一升しか入らない。その人の器量の大小に応じた働き場は必ずあるはず。根性・努力はもとより必要だが。私は次の諺が一番好きだ。「人事を尽くして天命を待つ」

記録として価値あるリアルな防災記事

(港晴・50代女性)

「一人の犠牲者も出さな」と取り組まれた防災の取り組みの記事(前号1、6、8頁)が強烈でした。特に南市岡小学校の「防災体験学習」の記事は、地域と学校が一体になって盛りだくさんなメニューをこなされた様子がリアルに、また面白く伝わり、読みながら、私も実際に参加しているような気分になりました。防災訓練は私の地域でも、また他の地域でも行なわれていますが、これだけ豊富な内容での実施は少ないと思います。港区の防災活動の歴史の貴重な記録として、また他の地域への参考や刺激として、本当に価値ある内容だと思いました。

南市岡の防災、子供の笑顔に感心した

(波除・40代女性)

いつも楽しく読ませてもらっています。友だちにも購読を勧めています。今月(前号)は特に「積み重ねて十数年、南市岡小で防災体験学習(1頁)」が心に残りました。何より参加した

子供たちの笑顔に感心しました。「防災活動は真剣に」と言われていますが、それは当然のことながら、その中にも楽しみや潤いがあれば、参加したい気持ちがいっそう強まるのではないのでしょうか。南市岡小では「アルファ化米の試食」「けむり体験ハウス」「レスキューツールの見学」など、子供の興味や興奮を誘うメニューがたくさん盛り込まれ、しかも一緒に参加した地域の大人との交流もあって、安心と温かみを感じられます。こんな訓練だったら、私もうちの子と一緒に参加したいと思いました。きっと他の学校や地域にも参考になるはずです。

「新成人インタビュー」に元氣出た

(市岡・80代女性)

「若い力を世のために」(前号17頁)というタイトルに胸が熱くなりました。今はどちらかというと「自分のため」が主流ですが、こんな風に書いて頂けると、昔の人間としては本当に嬉しいです。新成人インタビューが特に良かったです。自分の得意分野を発揮して社会に貢献したいという気持ちが、どの子の言葉にも表

われており、まだまだ港区の若者も捨てたものではない、期待できると元気が出ました。明るい話題が少ない中、港新聞の健全で温かい内容に希望を感じます。応援しています。

頑張れー若き日本料理人

（海岸通・60代男性）

「愛される料理人に」(前巻22頁)を読んで、岐阜県から出て来て築港の「割烹むろ多」に住み込み、技能五輪で入賞し、焼き物料理の優れた技術なで「なにわの名工若菜賞」に選ばれたという林勇佑さん。「十人が十人、誰にも愛される料理人に」という言葉、そして、きりりとした爽やかな笑顔が印象的でした。いまどき住み込みというのは珍しいと思いますが、あえてそういう環境に身を置くのは、それだけ日本料理への情熱を持っているからだと思います。これから先、必ずしも順風満帆とは行かないと思いますが、受賞を機に頑張りが続き、自分の店を持つなどの目的を果たしてはいいと思います。

心温まる記事に感謝します。

「弥栄子の空」 楽しみ、戦争は無意味

（八幡屋・80代女性）

「弥栄子の空」(前巻から連載の郷土ドラマ)が始まり、楽しいこのまじいこの世に、生きる楽しみが一つ増えました。弥栄子さんと同じように戦争で夫を亡くし、戦後再婚された女性



↑読者の作品から汗流さん

（市国元町3）の絵手紙

(もう随分前に亡くなりましたが...)が近所

におられ、その方を想い浮かべながら読んでいます。森上行茂さんの「戦争体験」も読ませてもらっていますが、戦争は本当に悲しみばかりで、何一つ良い物を創り出すことはありません。なのに、なぜそんな無意味なことを、上に立つ人は何度も繰り返すのか、不思議でなりません。「弥栄子の空」はまだ始まったばかりですが、フィクションとはいえ、その底には真実が流れているように思います。期待しています。

自分もそうだった、女性への淡い憧れ

（弁天・60代男性）

「故郷の話をしよう」を愛読しています。語りの浜口雄介さんが同じくへらの世代というところもありますが、私自身は大阪市内の出身で都会育ちにもかかわらず、とにかく懐かしさで一杯になります。貧しさを恥ずかしく感じたことやクラブ活動で遠征したことが、白黒の写真もいいですね。特に今回(前巻)のシンと来たのは、若い女の先生への淡い憧れを語ったところ。私の場合は中学三年の時ですが、若

く素晴らしい教習の女の先生に日本の歴史を教
えてもらい、私が鎌倉幕府成立の年号の覚え方
を「いっぺんに覚えられ頼朝さん」と答えた時、「よ
く勉強して覚えな」と感心され、とてもうれし
かっただけでなく、何となく胸が苦しくなり、
いっぺんはあの先生のことばかり考えていたの
を覚えています。それを近口さんにも経験された
ようで、「男はみな同じなんだなあ」と感心しま
した。懐かしく楽しい「故郷の話をしよつ」。
これからも続けて下さる。

「官」の役割は大切 民営化ゆへない

（南市岡・50代男性）

いつも地域的情勢を的確かつ詳細に伝える記
事に感心しています。今号（前号）を読んで特
に思ったのは「官」の役割の大切さです。学校
での「防災体験学習」、役所での「震災総合訓練」
「防災部会」、また「成人のつどい」からも、そ
れを感じました。いっぺんとは公的な機関が
「地域の安全のために」「若い世代のために」と
明確な目的を持ってきつちりやるべきものであ
る。採算をきかさないのもものではありま

せん。これ以外の分野でも、教育、保育、交通
福祉など、ほとんどはそういうものだと思います。
それを今の市長は、まるまる良いことのように
に「民営化」を推し進めています。今号（前号）
では「赤バス廃止」も出ていましたが、これな
どはその典型かと思っています。港新聞の紙面全体
からいっぺんが読み取れ、鋭い編集だと感
心しました。次号（今号）にも期待しています。

リアルな「大阪空襲体験談」に感心

（夕田・40代女性）

いつも身近なニュースを楽しんで読んでいます。
娘は去年二十歳になりましたが、仕事があり、
「港区成人の日 記念のつどい」（前号17頁）
には行けませんでした。いつも当口の様子が手に
取るように書かれていて、あとから娘は楽しそ
うに読んでいました。友だちのことも載って
たようです。その娘も私も、毎いっぺんから読ま
せてもらっているのが「平和のため戦争体験語
り継ぐ」です。今号（前号）は森上行茂さん
が大阪空襲の様子を本音でリアルに語られ、
「まだ小さかったのに、すいすい覚えていたわね」

「よっぽど怖かったなやるなあ」など二人で
感心しました。いっぺん記事は私たち戦争を知
らない世代への平和教育として本当に大切です。
取材や編集は大変でしょうが、これから長く
続けてほしいと思っています。

「あややけ」に笑う、「ゆひやけ」に驚く

（池島・女性）

「あややけ」（本紙）「ミッド」にはいつも笑って
います。特に奥さんとのやりとりが傑作で
す。うはいつても、ただ面白いただけでなく、短
い文章の中に社会風刺的な内容がびりりと光つ
ていて、とても読み応えがあります。最近の巻
末に「ゆひやけ」（編集後記）もあり、それも楽
しんでいます。こちらは記事の案内や取材の苦
労話などが、やはり社会風刺を交えて短くまと
められており、きくさせられます。今号（前号）
は「公務員叩きと民営化で財界受けしてる市長
はた」というフレーズが効いていました。私も
橋下市長のやり方や、やっつけてる事は好きでは
ありませんので、ちよつとスッキリしました。

催しガイド

■ムチ打ち(首・腰) 無料相談会 交通事故で

ムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。三月二十四日(日) 十時十八時に行政書士

のむら事務所(築港二・七・一・六〇八)で。

一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで。

「どうしたら正当な補償が得られるかをアドバ

イスします」事故後、早めの相談が良い結果に

つながります」と同事務所・野村光恵さん。E

メール: info@jiko110-nomura.com、TEL: 六五七六・六〇七八、F

AX: 六五七六・六〇七九。

■緑の地球ネットワーク(GEEN)のDVD『黄

色い大地に広がる緑く草の根環境協力の20年

』 GEENは中国山西省大同市の黄土高原で

緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地

球環境のため国境を越えて力を合わせている。

DVDは活動二十周年を記念して制作。一九九

二年から、時々政府関係の如何を問わず、

日中人民の友情と協力で、数々の失敗を乗り越

え、極度の乾燥と水害を繰り返す不毛の大地五

千八百坪に千八百万本のマツを植え続け、その

過程で、果樹園、小学校、井戸などを建設して

きた軌跡が辿れる。約二十分。無料▽問い合わせ

せはGEEN事務所(市岡一・四・二四・五階、

六五七六・六二八二)へ。

■大正区「原爆と戦争展」 平和な未来のため、

①第一次世界大戦の真実②沖縄戦・全国空襲の

記録③原爆と峠三吉の詩④敗戦後の日本ーなど

の写真パネルを通じて、日本の現状をもちらした

原爆と第二次大戦の真実に迫り、被爆者・戦

争体験者の平和への思いを伝える。十二回目。

五月十一日(土)、十二日(日)の十時十七時、

大正区コミュニティセンター(大正区千島一



→爆心地から三・五kmの道ノ尾駅前の母子(一

九四五年八月十日、長崎) Ⅱ展覧パネルから

六・一五、市バス(大正区役所前)二階の第四・

五会議室で。入場無料。主催は大正区原爆被害

者の会・大阪原爆展を成功させる会(TEL・

FAX〇六・六三二四・二八四)。

■大満宮「筆供養祭」 使い古した筆や鉛筆、

ペンなどに感謝すると共に、書道・文字・学業・

習い事などの上達を願う伝統文化祭Ⅱ写真上

昨年の模様。四月七日(日) 十四時から。当

日か事前に天満宮へ筆記具を持参。書く道具以

外(消しゴム・定規・筆箱など)は対象外。祭

典(十四時から筆供養祭及び献茶祭 参列無料。

焚き上げ供養は後日天満宮で▽同日十四時半、

十七時「お茶席」Ⅱ写真展(昨年の模様。桜を

観賞しながら和菓子と茶(献茶と同じ)を楽しむ

む(お茶券五百円)。天満宮は三先一・五・四〇

(港南中学校北隣)、六五七二・〇五二七。



がらだ にフクフク

「こどもパラダイス」今年も活況



→子供たちの笑顔が溢れた「こどもパラダイス」

11月17日、港区民センター（写真は大入

気だった「等身大の自分を描く」コーナー）

「心と頭と体を使う遊び本来の楽しさを子どもたちに」と今年も11月17日に港区民センターで「こどもパラダイス」が催されました。親子連れなど多数が訪れ、「からだ」をテーマにした様々な体験に目を輝かせていました。港区役所と（財）大阪府コミュニティ協会港区支部協議会が主催。港区社会福祉協議会、港区老人クラブ連合会、港区図書館、あいりん工房など区内外の多くの団体・施設・店舗が協力。

★ものづくりやダンス体験など

ホールやロビーなど同センターをフルに使って、絵画・草遊び・科学工作などのワークショップ、体や手や指を象ったクッキー・ピザなどの食べ物エリア、さらには文字アート・似顔絵・絵本・紙芝居などのコーナーが設けられ、ホール中央のステージでは『伝説のDJ』の司会でエイサー・ダンス・アクロバット・チャリ―ディング・空手・人形劇などが次々と登場。午前十一時から午後四時ごろまで、子供たちの歓声が絶えませんでした。

★等身大の自分を描く

このうち「等身大の自分を描く」ワークショップ

「オープニングを飾った「美らエイサー」④と廊下の壁に貼られた「からだの絵」⑤



「コーナーでは、子供たちが白い大きな模造紙の上に「ごろりと寝転がって父母や祖父母や兄弟姉妹に自分の体形をクレヨンで型取ってもらい、その中へ様々な色の絵の具で髪の毛や顔や服や靴を描き、出来上がった切り抜いた壁に貼ってもらっていました。」

インターネットでこの催しを知って尼崎から初めて参加したという藤澤正一さん（三三）・艶乃さん（三六）夫妻は、長女の和生ちゃん（六）が白黒の市松模様のパンタロン姿を、次女の新音ちゃん（四）がピンク色の華やかなドレス姿を描くのを、眺めたり助けたりしながら「こんな大きな紙に思い切り描けることはないの、こ

子供たちはとても喜んでいきます。和生ちゃん
「パンタロンの形が難しかったけど、出来上が
ったらとても嬉しい」と興奮気味、新音ちゃん
は絵の具で真っ赤に染まった手の平を晴れや
かな表情で見せてくれました。

★高齢者や妊婦の苦勞を体験

また「プレママ・おとしより体験」コーナー
では、障害者・高齢者・妊婦が日常生活でこれだ
け大変かを疑似体験できる装置（「コングルベ
スト、おもり、肘サポーター」など）が備えられ、
子供たちはそれらを二つずつ装着しては「ぼや
っとしか見えへん」「メチャ足が重たい」「起き
上がりにくい」などと感想を口にしていました。



→ ためになった港区社会福祉協議会の「妊婦体
験」④と「視覚障害者体験」④

↑ ものづくりの楽しさを味わえた「みんなでつ
くろう」④「浮ききりボール」④



母親の脇佳代さん、妹の奈那ちゃん（四）と
一緒にこの「コーナー」を訪れ、全ての体験をさせ
てもらっていた健太君（弁天小三年生）は「ど
れも大変さがよく分かりましたが、特に高齢者
体験は腰が曲がったりしてしんどく、年を取る
と辛いことが多くなるのが実感できました。車
内や路上でそういう人たちが困っていたら助け
てあげようという気持ちが、これまでも増し
て強くなりました」と話していました。

重さ六・八キの「プレママベスト」を着けて
妊婦体験を、リアルな「おっぱいベスト」を着
けて乳癌体験をした六十代男性は「妊婦さん
はただ起き上がるだけでも大変なこと、絶えず

お腹の子を意識し、愛情を持つて動かなければ
ならないことが分かりました。また乳癌のしこ
りの感触がよく分かったので、今晚さっそく妻
（五九）を調べてやります」と話していました。

★安心して健全に遊ばせられる

また「えほんひろば」では、体に関する絵本
が絨毯の上に並べられ、何組もの母子が寛い
様子でお気に入りの絵本を広げていました。
幸夏ちゃんと一緒に日本人の体の歴史の本を
見ていた木村奈美さん（磯路）は「初めて参加
しましたが、身近な所で子供たちが安心して健
全に遊べる、とても素晴らしい催しですね。毎
年続けてほしいです」と話していました。



→ 「からだクッキー」をアピールする母子④と
「からだ絵本」を一緒に楽しむ母子④

CHIKKOが優勝

区民バレー 22チーム熱闘



→22チームが熱闘を繰り広げた港区民女子バレーボール大会Ⅱ2月10日、港スポーツセンター(写真)は港南中PTA対港南OB戦

第十九回港区民女子バレーボール大会が二月

十日、港スポーツセンターで開催され、二十二チームが参加しました。港区体育厚生協会と港区役所が主催、港区バレーボール連盟が主管。

開会式では秋野入美子港区体育厚生協会会長

(港区バレーボール連盟会長)、田端尚伸港区

長、奥野止美市会議員が選手を激励。港南中PTAの豊永千鶴主将が「一生懸命、楽しく、安全に、美しくプレーすることを誓います」とユニフォームを交えた宣誓で会場を沸かせました。

三コートに分かれた予選リーグの上位四チームが決勝トーナメントに進出。波除女性会が南市岡クラブを、CHIKKOが南市岡女性会と共に二対〇で降して決勝に進みました。

★大声援の中で決勝戦

決勝では両チームとも粘り強いプレーの応酬で場内を沸かせましたが、二枚アタッカー(中山、藤本選手)を軸に攻撃バレーを貫いたCHIKKOが、一枚アタッカー(石元選手)ながらセッター嘉正選手、ミドル中尾選手らベテランを中心に以心伝心の関係で食いつがる波除女性会を、二対二で振り切りました。CHIK

←選手宣誓する港南中PTAの豊永千鶴主将



KOは第四回大会以来一度目の優勝。波除女性会は三年連続準優勝。三位には南市岡クラブと南市岡女性会が入りました。

★最高の形でリベンジ

優勝のCHIKKOは築港地区を中心とする地域チーム。週一回(各一時間)、築港小で基本プレーを中心に質の高い練習を重ねて進境著しく、最近の大会では、連盟杯で一昨年優勝、市長杯で一昨年準優勝、昨年三位、この区民大会でも一昨年三位など、絶えず上位争いを演じ、他チームの厳しいマークを受けています。

藤本礼子監督、池田美香主将らは「去年は決勝トーナメントに進めず悔しい思いをしたので、今年はリベンジの気持ちで参加しましたが、それが最高の形で果たせ、とても嬉しいです。

←2回目の優勝を喜ぶCHIKKO（後列右端は港区体育厚生協会・萩野入美子会長）



今日の試合ではやはり決勝戦が苦しかったですが、全体としてサーブなど練習の成果をよく出せたのが優勝の一番の要因。練習では全員揃っ

ことはほとんどありませんが、それをチームワークで補い、これからも、持ち味である攻めのバレー、コンビバレーに二層磨きをかけていきたい」と話していました。

★一丸の気力で準V

準優勝の波除女性会は港区の生涯スポーツの模範ともなっているベテラン中心のチーム。結成三十数年で、年齢幅は四十代から七十代。週一回（二時間）、波除小でレシーブなど基本プレーを中心に練習。一人アタッカーの弱点を、徹底したレシーブと、相手の隙を突く巧みなプレーで補い、港区の各大会では絶えず優勝争いから絡んでいます。

矢野幸子監督、松浦享子主将らは二年連続とはいえ準優勝はやはり悔しいですが、年々の体力の衰えに加え、今日は終盤にけが人が二人も出る非常事態を一丸の気力で乗り越えての結果ですから文句は言えません。これからもレシーブを中心に基本をしっかりと固め直すと共に、攻撃力の弱さを克服するため、二人目のアタッカー（山下選手）を早急に養成したいです」と語っていました。

←準優勝に穏やかな笑顔の波除女性会（後列の左右は港区バレーボール連盟の役員）



なお、会場にはいずみ鍼灸整骨院（井太の施術士二人が常駐、膝の痛みなどを訴える一十数人に応急処置を施し、選手たちの安全を支えました。

市岡小、圧巻の連覇

区P卓球 14チームが熱戦



→14チームが朝から夕方まで熱闘を繰り広げた「第32回港区PTTA親善卓球大会」2月3日、港スポーツセンター

「卓球を通じて各校PTA間の親睦を」と二月三日、港スポーツセンターで港区PTTA親善卓球大会が開かれました。港区PTTA協議会の主催、港区教育親和会の後援で三十二回目。磯路小、市岡東中を除く十四校が参加しました。

◆ユーモア宣言で幕開け

開会式では山本慎一しんいち港区PTTA協議会会長が「昨年十月から大阪市コミュニティ協会港区支部の手を離れて自主運営になり、十一月のバドミントン大会では初めて自分たちで運営した。こつこつ行事はなくなっていくので、今後皆さんに色々と協力をお願いすることになるが、よろしく」と呼びかけました。

南市岡小の主将 笠松龍雄りゅうおさんが「日頃の練習の成果を発揮して全力でプレーすること、そして終わった後の飲み会でも全力で頑張ることを誓います」とユーモアを交えた選手宣誓で会場を沸かせ、熱戦の幕が切つて落とされました。

◆予選から決勝トーナメントへ

一試合は五ゲーム（男子シングルス、女子シングルス、混合ダブルス）から成り、まず七チームずつがA・Bリーグに分かれて総

←ユーモアを交えて選手宣誓する南市岡小学校PTAチームの主将、笠松龍雄さん



当たり戦、次いで、その成績に基づき決勝トーナメント戦が行なわれました。

このうち決勝戦では、共に予選リーグ六戦全勝の一位ながら、一ゲームも落とさないパーフェクトな戦いぶりだった市岡小と、六戦のうち三戦が三対二と勝負強さが光った港南中が激突。市岡小が四対二と圧倒的な強さを発揮し、昨年に続いて優勝しました。港南中も一ゲームを奪つて一矢報い、意地を見せました。

一方三位決定戦では予選一位の市岡小が、予選で市岡小にだけ敗れた築港中が、築港小を三対二で破り、昨年準優勝の実力を示しました。

◆自主運営に協力呼びかけ

閉会式では宮本隆司たかし副会長が「自主運営によ

る不手際もあったが、各校運営委員や選手の皆さんの協力で無事終了させることができた。好プレーや珍プレーもあったて一日楽しめ、連覇の市岡小Pには非常にレベルの高い試合を見てもらった」と試合を振り返ると共に、「各校PTA間の親睦のために大会を続けていきたいので



→ 連覇に盛り上がる市岡小Pチーム

今まで以上に『協力を』と呼びかけました。

◆V2目標めいて達成

優勝した市岡小は毎週土・日曜日に基本練習を重ねると共に、他校へ『出稽古』に赴くこともあり、絶えず実戦感覚を失わないよう心がけてきました。水口正博(みづぐち まひろ)主将は『『連覇』を目標に出場しましたが、その通りになり、最高です。これまでチームを引っ張ってくれた中林さんの最後の大会ということで、『優勝して送りだそう!』と皆の気持ちが一つにまとまったことが最大の要因でしょう。それとOBの方々の声援がとても心強かったです。三連覇に向けて、これからも練習を重ねていこうと皆で気を引き締めています』と喜びを語っていました。

◆準Vは最高の思い出

また準優勝の港南中は毎週月曜日にOBとの試合形式などでも採り入れて練習を重ねてきました。野島恵子(のしま けいこ)主将は「めざせ予選四位一を目標に出場しましたが、個人的には現役最後の大会で最高の結果を残せ、とても嬉しいんです。多くの学校関係者の応援を受けて全員が持てる力を発揮でき、特に顧問の先生お一人の活躍が大き

← 準優勝に笑顔の港南中Pチーム



かったです。来年度に向けては、まず部員を増やすこと。私としては全くの初心者から始めて八年間、良い思い出をつくることができました。が、今後はOBとして後輩を育てていきたい。その前に港南校下の小学校PTAの皆さん、卓球を始めませんか!と話していました。

←3位にも爽やかな築港中Pチーム



◆悔し泣きの3位

また3位の築港中は週二・三回の練習を重ねてきました。吉田清美主将らは「優勝を目標に出場しましたが、一年連続で市岡小に完敗して悔し泣きくやみです。とはいえ3位に入れた要因はチームの団結と練習。来年度に向けては、今年度で四人が卒業なので、部員の補強がとれない課題です」と話していました。

少年スポーツ



→MINATO連合を卒団した選手たち

野球通じて成長実感

少年野球MINATO連合が卒団式

少年野球MINATO連合の卒団式が二月十日、八幡屋公園多目的広場で開かれ、野球を通じての成長を実感しながら巣立つ二十一人を、指導者や保護者、地域の人々が温かく見送りしました。同連合は港侍ジャイアンツ、弁太木ワイトボーンズ、市岡アトムツク、北恵加島少年野球部、福岡ヤンチャーズ、港ヤンキースの軟式六チームの集まり。

★今後も良き友、ライバルとして

卒団式では卒団生から各監督への花束贈呈が行われたあと、駿河通友会長が「卒団する二十一名はこれから先も良き友人、良きライバルであり続け、思い出の二つ二つ、指導者や両親の言葉の一言一言を胸に刻み、先輩を見習い、目標を持って勉強にスポーツに励み、誰一人として横道に逸れず、挫けず、人生を歩んで下さい。負けないで、自分に、顧問の奥野正美・大阪市会議員は「二人ひとりの技量とチーム

ークをかけがえのない財産とし、何事にも予習と復習を怠らず、スランプ時には創意工夫を忘れず、「これからの人生を歩もう」、大阪・港ボーイズ（港区の硬式少年野球チーム）の指導者・金村氏は「このグラウンドが君たちの甲子園だった。支えてくれた父母や指導者への感謝を忘れず、好きな野球をこれからも続けてほしい」とそれぞれはなむけの言葉を贈りました。

続いて優秀選手として西川剣之介、田中瑛人、木山勇飛の三選手が表彰され、卒団生一人ひとりに駿河会長から卒団証書が授与されました。

★送辞・答辞に感動の涙

このあと在団生を代表して小松侑生選手が「先輩方で過ごした日々はとても楽しく、一緒に練習したり、遊んでいたたりした思い出はいつまでも忘れません。これから僕たち五年生が先輩方の後を引き継ぎ、下級生の手本となるように頑張っていきます」と送辞を、卒団生を代表して港ヤンキースの田中瑛人選手が「監督・コーチからは野球を通して色々なことを教えて頂き、お父さん・お母さんには寒い日も暑い日もグラウンドに来てくださるの支援を

←送辞を読み上げる5年生・小松侑生選手の送辞を読み上げる6年生・田中瑛人選手の



頂き、感謝の気持ちで一杯です。この気持ちを忘れず、誇りを持ち、中学校に進んでも一生懸命頑張っていきたい。下級生の皆さん、仲間を大事にし、日々努力精進して頑張つて下さい」と答辞を読み上げ、保護者らの涙を誘いました。最後はグラウンドを一周して退場する卒団生を、在団生や保護者らが拍手で見送りました。

★礼儀止しなど身につけた

卒団生の一人、嶋本龍樹選手（弁天小）は一年生から市岡アトムニックに在籍し、六年生では捕手で六番打者として活躍すると共に、主将も務めました。「六年間では、夏のキャンプでの川泳ぎやスイカ割りが楽しかったです。練習で長い距離を走るのには辛かったです。一年生では

五十メートルを十一〜十二秒かかっていたのが、一年生では九秒で走れるようになり、とても嬉しかったのを覚えています。そんな野球生活を通じて、挨拶をきっちりするなどの礼儀止しさや、苦しくても我慢して続ける心の強さが身についたのを感じます。野球の魅力は、勝利に向かってチームとして皆で力を合わせるころ。中学校でも野球を続け、できれば硬式をやりたい。イチローさんのような、守備も打撃も走塁も優れた選手に憧れます」と話していました。

★日常行動が素早くなった

同じく卒団生の一人、近澤虎太郎選手（波除小）は一年生から港待ジャイアンツに、五年生からMINATOPブルースターに在籍。六年生では捕手として活躍すると共に、主将も務めました。「六年間で一番嬉しかったのは、キャプテンとしてチームを任されたこと。その一方でメンバーが自分の指示通りに動いてくれる、チームにまとまりがなくなった時期はとても辛かったです。そんな経験を通じて色々なことを学び、また身につけることができましたが、特に、日常での行動がきびきびと素早くなった

のを感じています。中学に進んでも野球は続けたい。巨人の阿部捕手が好きで、リードがうまくだけでなく、高打率を残すなど打者としても一流であるところに憧れます。将来はプロ野球に入り、できれば巨人の選手として活躍したいと思っています」と話していました。

★うれしかった初ヒット

同じく卒団生の一人、田中瑛人選手(築港小)は二年生から港ヤンキースに在籍。六年生では



→指導者に感謝の花束を贈る各チーム主将(左)保護者(右)が見送られる卒団選手たち(中)

一塁手で活躍すると共に、主将も務めました。「六年間で一番嬉しかったのは、初めてヒットを打ってチームに点が入った時。その一方で、練習でも試合でも、ボールが顔や体に当たった時は、痛くて、とても辛かったのを覚えています。そんなこともありましたが、野球を続けたことで心身が丈夫になったことにはとても感謝しています。中学校へ進んでも野球は続けたい。長打力のある阪神の新井選手が好きで、将来はプロ野球に入り、できれば阪神で活躍したいと思っています」と話していました。

★卒団生の氏名

卒団生の氏名は次の通り(敬称略)。MINA
TOPルースターⅡ 近澤虎太郎、西川剣之介、
中嶋倫太郎、内海皓介、馬場龍希、高宮城裕樹、
古賀大雅、港ヤンキースⅡ 田中瑛人、川崎崇史、
市原永遠、神垣忠政、市岡アトム、ミック、嶋本
たつき、龍樹、松尾夏生、片岡篤志、神田郁弥、森英勝、
澤田樹、榎本大暉、木山勇飛、山本洋輔、片
山遼耶。

なお、同連合についての問い合わせは ☎八五七・七六・七二九 駿河会会長まで。

スポーツ短信

■大阪・港ハイイズ(少年硬式野球)は広大な太子グラウンドで練習を重ねているⅡ写真。三月は尼崎B・南都エングェルスと練習試合。硬式に興味ある小中学生の体験練習・入部説明随時。☎八五七・一六七五 スポーツさん又 ☎〇九〇・一二二六・四九八四 平野。



きしもと やすし

南市岡在住画家 岸本 安司 (81)



高度経済成長の中

ひっそり遊んだ姉弟

東京オリンピックの喧騒が過ぎた、確か昭和四十年ごろ、うちの向かいに「南国荘」という名の古いアパートがありました。この辺りは港区でも特に民家が軒を並べた南市岡三丁目の一角で、戦災を免れた建物もかなり残っていました。その一つである木造の集合住宅に住む幼い姉弟が、この絵のようになり、よくその前の道路

で遊んでいました。当時まだ舗装されていなかった路面に寄り添うように座り込み、服の汚れも気にもせず土を掻き集め、動物が何かに捏ね上げては潰し、また何かを形作っていました。大きな声を挙げることもなく、日が暮れるまでそんなことを繰り返していました。

高度経済成長の只中、「億総中流」さえ叫ばれる時代でしたが、取り残されたように、その家は貧しかったようです。姉弟は幼稚園にも保育園にも縁がなく、身に着けている衣類や履物も粗末でした。近所の子供とはしゃがみあつ姿も見ませんでした。



「姉弟」1965年(油彩)

やがて姉の方が学校へ上がるかと思われる頃、親の仕事の都合が何かがで、一家はどこかへ越して行きました。思えば一人がそんな風に遊ぶ様を見ていたのは一年にもならなかったでしょう。それでも暫くは、何だか家の前が色を失ったように寂しく、空虚で仕方ありませんでした。

—あれから四十数年。今は舗装された同じ道を二階から見下ろす度に、あの姉弟の幼くもひっそりした姿が甦ってきます。

× × × × ×

きしもと・やすし 一九三二年港区生まれ。

小豆島暮らしを経て三光国民学校から大阪、香川の工業学校へ。戦後は工場勤めを経て城東保健所、大正保健所に勤務。演劇活動をきっかけに絵画を始め、定年を挟んで「高速道路なんかいらん」「役所の腐敗を何とかせよ」などの社会的警鐘や、「隙間」「口陰」「けたない」への愛着を込めた独自の画風で描き続ける。賞を厭い、組織に属さず、生涯一匹狼画家を賞讃。

(編集部より) 岸本安司さんは二月二十三日

朝、肺癌のため市内の病院で亡くなりました。次号で追悼記事を予定しています。

生涯学習の花 満開

春いちばんふれあいフェス



春の訪れを前に「生涯学習の花」が一足早く咲き競いました。一月二十四日、井田町市民学習センターで開催された「春いちばんふれあいフェスティバル」には区内十一小学校の生涯学習ルームが参加、一年間の成果を発表し、学びへの意欲を刺激していました。同フェスティバル実行委員会と港区生涯学習推進員連絡会の主催、同センターの共催で十五回目。

★コーラスなど次々と

舞台では各生涯学習ルームを中心に、友情出演も加わり、歌や踊りを次々と披露しました。全一千八演目中、コーラス発表が最多の土を占めたのは、もともとコーラス発表の場として発足したこの催しならではの傾向。練習の積み重ねが感じられる美しいハーモニーや弾むようなリズムに自然と手拍子が起り、会場が一体感に包まれる光景も。その他、琴演奏、居合道、民踊、歌体操、太極拳、気功、詩吟、紙芝居、フラダンスなどバラエティーに富んだ発表に、客席から拍手と声援が絶えませんでした。

★作品展示や活動紹介

一方、研修室などでは書道、紙芝居、塗り絵、

←爽やかに『寒い朝』などを披露した築港小学校生涯学習ルーム「歌謡教室」⑤と、優しさ一杯に『ほほえみ』などを披露した八幡岸小学校生涯学習ルーム「ナチュラル」⑥



手芸、生け花などの作品展示や、日本語交流教室、ハングル講座などの活動紹介が来場者の関心を誘っていました。

★民踊で明るく元気に

陽気な『仙台よいこ』などを披露して喝采を浴びた市岡小学校生涯学習ルーム民踊部の三浦京子さん(七三)は五年前から、小田洋子さん(六九)は一年前から同部で民踊を始めまし

←明るいきらびと元気な身のこなしに喝采が送られた市岡小学校生涯学習ル／市民踊部の舞台(上は『仙かみい』、下は『王儲高麗』)



た。二人は出演後、「民踊は心地よいリズム感があるので、明るく元気になれます」「定期的に練習に出かけることで、生活にリズムとメリハリができました」「練習では姿勢を正しくするよう言われているので、それを意識して、心身がキリッと引き締まります」「好きなことをさせてもらっているのが性格が明るくなり、人にも優しくなれるように思います」と話していました。

演劇ガイド

●あながいおまる一座『椿屋騒動 情の名残り』
波除の自由空間「石炭倉庫」を拠点に芝居を通じて庶民の優しさや逞しさ、社会的警鐘を発し続ける同一座のスタジオ公演。今の東京新宿辺りの遊里を舞台に、互いに騙し騙される人間の愚かさ可笑しさを描いた傑作落語『又違い』から、あながいおまる座長が脚本・演出。

河野明夫(二味線、亀井浩夫(ギター)が特別出演。三月三十日(土) 十四時、十八時、三十一日(日) 十二時、十五時の四回。前売 千三百円、当日 千八百円。問い合わせ・申し込みは会場の石炭倉庫(波除六・五・一八、JR井

天町駅から国道四二号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。☎六五八一・〇六六四)へ。

●井天町市民学習センター・井天喜劇『笑天下』
舞台発表『井天銀行 SOS』 地元・港区を題材にした喜劇で「自分も人も、港区も大阪も元気に」と二〇一〇年十月、会社員・学生・主婦などごく普通の市民が立ち上げた喜劇集団の七回目の公演。三月三十一日(日) 十五時から出演者個人芸を披露し、十五時半から開演。

観劇無料。定員百二十名(当日先着順)。☎六五七七・一四二〇同センター。

●井天町市民学習センター『どうも楽々寄席』
舞台発表 講談と落語を芝居仕立てで楽しむ講座として楽々寄席「受講生による舞台発表。

六カ月間の稽古で作り上げた新しい落語と講談の世界を披露。「オーク井天寄席」でお馴染みの笑福亭学光、旭堂南麟両氏が指導・演出。演目は落語「しの字千稚」「酒の粕」「金色明竹」と講談「荒太名茶の湯」。三月二十四日(日) 十五時から同センター講堂で。観劇無料。定員百二十名(当日先着順)。☎六五七七・一四二〇同センター。

とにかく得電ねん!

LED照明に 換えてみませんか!

コスト減 + 環境貢献
(電気代カット・驚異の長寿命) (CO2を削減・有害物質ゼロ)

- 割れない、熱くない、すぐ点くなどのメリットも
- 店舗、工場、オフィス、家庭、屋外、公共施設に
- 場所や用途に応じてタイプ色々、取り替えも簡単

中小企業で世界初の全社屋LED化<見学歓迎>

前田機械(株) LED事業部
(LED照明・企画販売)
市岡元町2-3-28 ☎6582-5010
http://www.maedamachine.com

勸善懲惡の痛快さ

石炭倉庫 謎解き人情時代劇に反響



→ 勸善懲惡の痛快さに謎解きの面白さと人情を絡めた『横堀川の幽霊』の一場面＝石炭倉庫

かんぜんちよくあく
勸善懲惡の痛快さに謎解きの面白さと人情を絡めた時代劇『新版・上方平次捕物控 横堀川の幽霊』が二月下旬に波除の自由空間「石炭倉庫」で上演され、反響を呼びました。作家の故綾羽一紀さんの人気シリーズを大阪の新進女流作家・島村由花さんがリニョアル。石炭倉庫を拠点に人間味溢れる芝居を演じ続ける「じゅうくるとんぼ一座」があんがにおまる座長の演出で演じました。

◆連続殺人事件の謎に挑む

——時は江戸。舞台は大坂・下町の七軒長屋。美形の女形・初雪綾之介が人気を極めていたのと時を同じくして、横堀川で連続殺人事件が発生。被害者はいずれも古本屋の主人。しかも事件の晩には必ず川の傍に美女の幽霊が。解明に乗り出す銭形平次の従兄弟・上方平次と自分の八五郎。ライバルの目明し・まつたり右門も負けてはいない。川浚えをする怪しい一味を追って川に落ち、風邪を引いた平次は薬屋＆国学者の上田秋成に助けられる。が、その秋成も一味に誘拐され、殺された古本屋らが肌身離さなかった二枚の地図を前に「最後の一枚を出せ」と

おど
脅される。四枚揃つと真田幸村が隠した財宝の埋蔵場所が判るといつ。巧みに縄を抜け、三枚の地図を手に生還した秋成は、自分が隠し持っていた四枚目の地図を平次に差し出す。宝の在り処を突き止め、茶臼山へ向かう平次ら。嗅ぎつけて襲いかかる一味。その頭領は何と綾之介。しかし平次・右門・秋成・八五郎の見事な連携プレーであえなく御用。幽霊の正体は殺害現場の綾之介だった。そして肝心の宝は何の変哲もない黒茶碗……に見えたが、実は安土桃山時代から伝わる超お値打ち品。独り占めを図る秋成。が、平次の目は「まかせず、結局お上の手へ。奇怪な騒動は一件落着。長屋は以前の平穏と陽気を取り戻し、秋成は代表作『雨月物語』の着想を得たのであった——。

◆個性あふれるキャラクター登場

普段は至って呑気だが、いざ事件となると抜群の推理と行動力を見せる平次親分を軸に、お調子者の八五郎、平次のライバルで抜け目のないまつたり右門、陽気な長屋の女将・おとせにお千代、高向な字者でありながらドケチな浪速商人でもある秋成、女形を仮の姿に盗賊を率い

る綾々から、個性溢れる面々が入れ替わり立ち替わり登場。謎解きの進展と交錯させて、華麗な舞踊あり、ちょっと怖い幽霊シーンあり、派手な立ち回りあり、漫才的な掛け合いありのめまぐるしくも起伏に富んだ筋書き。ポピュラー音楽に乗せた快テンポの場面転換。その中から「悪は常に金銭欲から生まれる」という人の世の横図が浮かび上がり、最後は勧善懲悪の痛快さで観る者を清々しい気分にならせてくれました。

◆現代社会への風刺も採まれ

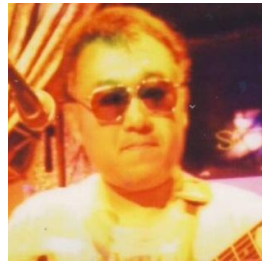
また随所に採まれた「やれ韓流ら華流やらアメリカのセリフやら、外国のものばかりもてはやしよる」(秋成)など今の日本社会を風刺する台詞には、どの芝居からも世の在り方を考えてもらおうという一座の姿勢が表われていました。

これまでの基本を踏まえつつ、「一味違つ展開や笑わせパターン」(えらいこっちゃ)の台詞から阿波踊りになる、『雨月物語』が百三十年後に映画化されることを劇中でハラす(なご)も見られ、新進作家の手でシリーズに新たな歴史が刻まれました。

ライブ情報

●八幡屋出身ロックドラマー 桐田勝治さん

月二十日(水祝) 十八時から江坂ミューズ(八六三八七・〇二〇三)で所属バンド「ガーゴイル」のワンマンライブ「奇獣卵」▽四月十九日(月祝) 江坂ミューズでガーゴイルのニユールアルバム発売記念ツアー(詳細未定)。



↑桐田勝治さん(左)とヘッドロさん(右)

.....

●三先のフォーク歌手・ペドロさん

一・三木曜 二十時ザ・セラー(中央区西心斎橋、八六二二二・六四三七)▽毎月第三火曜 二十時かつおの遊び場(中央区宗右衛門町、八〇九〇・五八八二・七〇二五)▽毎月第一火曜 二十時半ロージー(中央区西心斎橋、八六二二三・三九九九)。

●市國元町の音楽ユニット「花☆キャラ」

月二十日(祝) 十三時四十五分から河内長野市ラプリーホール(南海・近鉄「河内長野駅」歩八分、無料駐車場あり、八〇七二二・五八・六二〇〇)小ホールで開催の『マミラと河内長野をつなぐアジアの片隅からポール・ガランと共に子どもの願い PEACE「コンサート」に出演。ポール・ガランはフィリピンの音楽家で、子供たちが元気で安全で自由に生きられる「平和な地域」目指して活動。その親子「コンサート」や地域団体の発表、模擬店なども。参加協力券千五百円(中高生五百円)▽http://www.ocn.ne.jp/shanna23883



↑花☆キャラのニッシーさんとカオリン

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一がつづる当地ドラマ。区内の地名や人名が登場しますが、総じてフィクションです。初回は、戦争の悲劇を乗り越え、逞しく生きてきた女性、村岡弥栄子の物語――。

弥栄子の空(一)

（前号あらず）九十歳を過ぎた弥栄子は一度の墓参りの中で、最初の夫・山崎満雄との結婚当時を思い出していた。昭和十八年秋に見合い結婚した会社員の満雄は既に召集令状を受けていたが、新婚生活は夢のようだった。が、「いつまでもこの幸せが続きますように」との願いは半年で破られた――

昭和十九年八月、夫・山崎満雄は大阪の陸軍連隊に入隊した。一カ月後の八月に弥栄子は男児を出産。翌月、生後二十日あまりの長男を抱いて、父母と共に和歌山市内の陸軍部隊へ面会に訪れた。面会場所の国民学校の校庭は、大勢の家族で溢れていた。食事を挟んで三時間、満雄は我が子を抱いて離れず、「いそがしき子を生んでく

れたなあ」といつまでもその顔を眺めていた。

翌月にもつ一度面会の機会があった。この時は面会人数を厳しく制限されたため、行けたのは弥栄子と長男だけだった。場所も教室のような狭い所で、他の家族もわずかだった。満雄はやはり長男を抱いたまま、念を押すように言った。「苦労をかけるけど、この子はしっかり育ててほしい」。お互い「これが最後」という予感で胸が一杯になり、あとはほとんどしゃべることができなかった。

面会の帰り、和歌山の秋の空はどこまでも碧く、高かった。その下で弥栄子は何度も何度もつぶやいた。「満雄さん、死なんといて――」絶対に生きて帰って――。

ほどなく弥栄子は借家を引き払い、長男と共に父母のいる港区大塚町に身を寄せた。弥栄子は太正九年にここで生まれたのだった。家は



借家で、粗末な長屋だったが、父は通船会社に勤め、弥栄子はその一人娘として、母や祖母に見守られながら不自由なく育った。大阪港が近く、潮の匂いがいとも漂っていた。長屋の住人たちは、口は荒いが情に厚く、子供らはよく怒られる代わりに面倒もよくみてもらった。

築港北尋常小学校から女学校へ進んだ弥栄子は、学校がキリスト教系だったため比較的自由な雰囲気の中で四年間を過ごした。卒業後は大阪市の電気局に就職し、事務員として六年間を勤めた。日中戦争が泥沼化していく時代だったが、休日には同僚つと宝塚歌劇へ通っては楠かおるらスターの華やかな舞台に酔い、戦争を強く意識することはなかった。昭和十八年十一月八日には大國アメリカとの間でも戦争が始まり、職場や近所では「えらいこっちゃ」と持ち切りだったが、数え歳二十一の弥栄子はそう大きな不安もなく受け止めたのを覚えている。

が、そんな懐かしい思い出のある故郷での再生活をも、戦争の巨大な影は容赦なく覆っていた。

地産地消に寄与

「なにわの名工」の日本料理人

室田大祐さんに訊く ①

優秀な技能者を大阪府が表彰する「大阪府優秀技能者表彰」「なにわの名工」に選ばれた築港の日本料理人・室田大祐さん（四九）を職場に訪ね、受賞の感想や、受賞に繋がった技術、さらには料理にかける思いなどを訊きました。



→「なにわの名工」に選ばれた日本料理人・室田大祐さん。優れた技術と共に地産地消への寄与が評価された「築港の「割烹（かっぽう）」で

「なにわの名工」は各職業分野で「府内の第

一人者と認められる」などの条件を満たした満三十五歳以上の技術者が選ばれますが、今年度は五十四人が選ばれ、昨年十一月に発表されました。その一人である室田さんの選考理由には、

①なにわ伝統野菜を使ったメニューの考案など地産地消に寄与した②はも料理などで卓越した技術を持ち合わせている③ふぐ処理講習会の講師を務めるなど後進育成にも尽力している

一などが挙げられています。→資料①

室田さんは現在、築港四丁目の「割烹（かっぽう）」と北区曽根崎新地の「北新地むろろ」の両店で店主を務め、社団法人全国技能士連合会・大阪府日本調理技能士会の会長として日本料理界、上方料理界の発展にも貢献。また、現在興行中の大相撲大阪場所のお茶屋七軒のうち三軒から仕出し注文を引き受けるなど、多忙な毎日を送っています。

◆室田は「なにわの名工」受賞の瞬間が嬉しかったですか？

十九歳から三代目として暖簾（のれん）を守り、酒も飲まず（笑）、集中して頑張ってきたことへのこ

褒美（ほうび）として、大阪府で一番の賞を頂けたのかなと受け止めています。これが若い子らへの励みになれば、なお嬉しいです。

◆何がポイントになったかと思われますか？

大阪府のふぐ処理講習会の講師・試験官を七年間務めたことや、上方料理の花形である「ふぐ」や「はも」を使った料理をアピールできたこと、なにわ伝統野菜である「田辺大根」を使った料理で地産地消に寄与できたこと、などがポイントになったのかなと思っています。

◆受賞を誰に感謝したいですか？

これまでお世話になった全ての方たちですが、特にこのことであれば、父親である室田光弘と、師匠である鈴木秀忠氏です。氏は昭和七年生まれで、大阪一の料亭といわれる南地大和屋の総料理長を務め、十八年前に死去されました。

◆受賞を今後どう生かしたいですか？

地産地消への貢献を評価して頂いての受賞といいますが、これを機に一層、食べ方なども含めて、大阪の人たちに大阪の食文化への誇りを持つてもらいたい、そのため小学生ぐらいから教えていきたいと思っています。

◆それでは本題に入りますが、笑、受賞の大きなポイントとなった地産地消への寄与、その具体化である田辺大根へ資料②を使った「風呂吹き大根」へ資料③。いろいろとどんなきっかけで考案されましたか？

七、八年前、それまでのマスコミ関係者や料理人との付き合い、また雑誌・新聞などへの連載もの執筆などの中で、「大阪の活性化を考えなアカン」という思いが強まり、特に「大阪の食はたこ焼きやお好み焼きなど粉もんばかりや」というイメージが定着していたことに抵抗を感じ、「大阪産の素材を使った郷土料理をアピールできたら」ということで、大阪の代表的な伝統野菜である田辺大根に注目した訳です。

◆この料理の技術的なポイントはなんにあるんですか？

まず火の通り方ですね。通り過ぎても、通し足りなくても駄目ですが、甘みが多く、柔らかいこの大根の特性を生かすため、特に通り過ぎは禁物。煮立ったあとに余熱でじっくり温めるといった感じがいいのです。

それと田楽味噌の味加減。濃すぎても薄すぎ

←なにわ伝統野菜「田辺大根」を使って室田大祐さんが考案した『風呂吹き大根』。肉質が緻密で柔らかく、甘みが強い特性を生かしてじっくりと煮込み、葉の旨みを生かして鰯鮓を作り、田楽味噌や柚子を添える。上方料理と地産地消をアピールする代表的なメニュー



てもいけません。特に濃すぎると大根の旨みを消してしまうのは一番避けたいことです。

さらに、普通は切り落とす葉っぱを素材として生かすこともポイントの一つで、これは刻んで鰯鮓に調理します。

◆「地産地消」のもう一つの具体化である「はもの骨切り」。その技術的なポイントなどを

はものは先ほども言いましたように、上方料理の代表的な素材の一つですが、その調理に欠かさないのが骨切りです。その際の包丁運びは、通常は一定のリズムや間隔で行いますが、私の場合それを「属微細に、また自在に変化を付けながら行なっています。その時のムラや、そのあとの湯引き（湯掻き）で、より綺麗に花が開く。つまり、はもの身が湯の中へ花びらのように広がるのです。そう、この花が美しい、味も良くなります。その際の湯の温度は、煮立って少し前くらいが最適です。

◆その道の匠の技が感じられます。次に、やはり受賞のポイントとなった「後進育成」の中で、大阪府のふくみ処理講習と七年間講師を務めたというエピソードがー

日本調理師連合会の前会長である則武康夫先生（故人）のおかげでこの中で大変気に入

つて頂き、「ぜひ講師に」と推薦して頂いたことがきっかけで「微力でも業界のお役に立てたら」とお引き受けしました。

毎年十一月、受験などの必要に応じて学校などへ出向き、模範実技を十五分ほど、そのあと生徒の前で一時間ほど直接指導——といつ流れて教えます。年間で約千人を指導し、七年間で延べ千八百人を合格させることができました。

◆それは素晴しい訓練である。他に講師をうけて「良かつた」と思ふ人はないよ。

そうして教えた生徒はその後、どこかの店で働いたり店を持ちたりしていますが、たまたまその店に入った時などに「先生に習った○○です。頑張ってます」などと声を掛けてくれることがあります。私の技術や知識が広がり、役立っていることが実感できるととても幸福なひとときです。

◆分かります。ところで料理人として、また店主として、一日をいかなる風に過ごしておられるのか？

(うつ)

室田大祐氏 略歴 昭和二十八年、港区築港に

生まれ、曾祖母、祖母、父母、姉弟ら家族八人と住み込み従業員七人、計十五人が一緒に暮らす。曾祖父母は戦前、千日前で料理旅館を営んでいたが、戦争末期の疎開で土地を失い、廃業。祖父は造船業を営んでいたが、やはり戦争の影響で廃業し、戦後は大保山桟橋で寿司と串カツの店を営んでいた。父親・光弘氏はそれを継いで寿司割烹の店へと発展させ、昭和二十四年に現在地に移転。そのもとで築港小から近大付中へ進み、西淀川高を卒業。昭和五十七年四月、大阪一の料亭といわれる南地の大和屋に就職し、日本料理の基本を習得。昭和六十年四月に父親の経営する株もろ多に調理師として就職。三代目として本格割烹への転換を図る。平成六年四月から同十八年三月まで同社の調理長、同年四月から北新地店の店主・調理長に就き、現在に至る。父（七九）、妻（四八）、長男（一五）、長女（三三）と五人暮らし。

食料①なにわの名工に選ばれた理由 ①

開き具合を実現している②地産地消への寄与
 Ⅱなにわ伝統野菜である田辺大根で風呂吹き大根を考案するなど、メニューの考案・改善を行な

つた③日本料理の伝統文化への貢献＝四條流式庖丁道の師範として後輩門下生の育成に努め、大阪天満宮の春の鎮火祭では庖丁人を長年務めている④ものづくりへの貢献＝「おおさか技能フェア親子ものづくり教室」や府下中学校の「ものづくり体験教室」で料理やテーブルマナーの指導にあたっている⑤食生活改善への貢献＝「ヘルシー外食フォーラム2005」では成人病対策をテーマに基調講演を行ない、パネルディスカッションのコーディネーターも務めた⑥技能向上への貢献＝「第二十回技能グランプリ全国大会」（平成十二年）で四課題（「ヒラメの薄造り」「梅挽」「酢の物」「廃材を利用した自由課題」）に挑み、敢闘賞を獲得した⑦料理人の地位向上への貢献＝「魯山人復刻食事会」（平成二十四年五月）の総会プロデューサーとして従業員と共に参加し、高い評価を得た⑧後進育成への貢献＝大阪府のふぐ処理講習会では七年間講師を務めて延べ千八百人を合格に導き、

大阪あべの辻調理師専門学校では外来講師として十年間教壇に立ち、平成十五年からは技能五輪全国大会参加選手強化訓練を実施して五名を入賞（銀メダル二、銅メダル一、敢闘賞二）に導いた（以上、大阪府資料より抜粋・再構成）

＜資料2＞田辺大根 東住吉区田辺地区を中心に、江戸時代から品種改良を重ねながら栽培されていたが、戦後、ウィルス病の影響でいったん姿を消し、一九八五年に復活。現在、大阪市、堺市、南河内の四十軒ほどの農家がこの野菜を守り続けている。長さ二〇センチ、太さ九センチほどで、ずんぐりして先端が少し膨らみ、肉質は緻密で柔らかく、ポピュラーな青首大根より苦みが少なく甘みがあり、普通は切り落とす葉も、裏に毛がなく軸が長いために味が良く、付けたまま出荷される。煮崩れにくい、じつじつ煮込む料理に最適。中が白く、歯応えがある方が旨いという最近の傾向にマッチしている。

＜資料3＞風吹き大根

＜材料＞田辺大根

一本。出汁昆布一〇センチ、鰹節四〇センチ、米一〇センチ、吉野葛少々、金時人参三分の一本、柚子

四分の一個、金箔少々、煮汁（水九〇〇cc、酒九〇〇cc、牛筋五〇〇cc、鰹節五〇cc）、田楽味噌（桜味噌三五〇cc、八丁味噌一五〇cc、みりん大さじ二杯、酒大さじ二杯、砂糖一〇〇cc）土生姜微塵切り大さじ二杯、鶏ミンチ一五〇cc。＜作り方＞①田辺大根を三センチの輪切りにし、皮を厚めに剥いて花に包す。中央を直径三センチ、深さを二センチほどくり抜く②鍋に水、昆布

米を入れて火に掛ける。米がお粥くらいになったら大根を入れ、竹串が通るくらいまで湯がき、水に晒す③煮汁の水、酒、牛筋を火に掛け、追いついて鰹をして二割ほど煮詰める④③九〇〇ccと二番出汁一八〇〇ccを火に掛け、塩、淡口、みりん、味を調え、②を炊き上げる⑤田楽味噌の材料を鍋に入れて練り上げ、冷まして冷蔵庫で保存する。使う際に必要量を鍋に取り、出汁で程よく延ばして火に掛ける⑥鰹、鰹は大根の葉を刻んで塩少々を入れ、当たら鉢でめたく。水を注いで鍋に取り、沸いてきたら下澄みをつく、裏漉しに取って豆腐であおぎながら冷ます。大根を炊いた出汁を延ばし、吉野葛を引く。

ひとくちPR

（1行＝税込1000円）

●何でも書きます、まとめます 手紙・案内・報告・宣伝・司会等の文案。自分史・社史・団体史等の聞き書き。新聞・広報・書籍・会報等の取材・編集。 ☎6571・4636 港新聞・飯田編集事務所。

●アルバイト急募 週一回の新聞配達と月一回の集金を都台のいい時間に。港民主商工会 ☎411・1011六、 ☎八五七二・七八六七。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント名を書いて20日必着で港新聞へ。

●交通科学博物館 (1/11/11案内) 招待券をへア2組に。

●関西フィル「いすみホールシリーズ30」(11/11/11案内) 招待券をへア1組に。

●あながいおまる一座「椿屋騒動 情の名残り」(演劇ガイド) 招待券をへア2組に。

故郷の話をしよう

兵庫県・沼島出身
ぬしま

浜口 雄介さん（磯路）〈下〉

「♪遠い日の夢の数々 僕は知りたい君の故郷 故郷の話をしよう」（昭和四十年北原謙二『ふるさとの話をしよう』）。生粋の港っ子にとっても、最近越してきた人にとっても、慌ただしい都会生活の中で、まだ見ぬ異郷に思いを馳せるのは、時空間旅行にも似た快感です。そこで幼少期・青年期の悲喜交々を織りまぜながら、皆で故郷の話をしましょう。語り手は、淡路島の南に浮かぶ沼島から上阪し、現在は八幡屋で「浜口サイクル」を、三先で「港モーター」を営む浜口雄介さん（六四）です。前回までに小・中学校時代までを話して頂きましたが、最終回は島を出てからの関わりを。

× × × × × × × ×

◆中学卒業後はいくらも遊んだか？

←十五の春 大阪で働くため島を離れる私



ほとんどの同級生がそうであったように、大阪へ出ました。一九六四（昭和三十九）年の春でした。自分ではこれという当てもなかったのですが、既に大阪で働いていた五歳上の長兄が手を尽くし、港区内の自動車整備会社に就職させてくれました。

昼間はそこで働き、夜は市岡高校の定時制に通う生活が始まりました。高度成長の時代で、自動車関係の仕事には未来があるように思えました。覚えなければならぬことが山ほどあり、頭も神経も使った難しい仕事でしたが、「早く技術を身につけて一人前になろう」と必死でした。

高校で二年後輩だった妻と卒業後に巡り合って結婚したあと、三十八歳で独立し、八幡屋に自転車店を構えました。「自分にはこれしかない」「妻や子供たちのために」と懸命に働き、六・七年後には支店を三先に出すことができました。



→昼は働き、夜は学んだ市岡高校定時制時代（修学旅行の時に級友と。右端が私）

平成に入っても数年は好調でした。が、次第に暑気が悪くなり、家内にも手伝わってもらって何とか両方の店を維持していますが、厳しい経営が続いています。原因は、量販店や大型店で極端な低価格の自転車を大量に並べていることに尽きます。

値段ではとても太刀打ちできないので、地域店としては安全まで品質のよい自転車をできるだけ安く提供するしかありません。そのため陳列を工夫してよい製品をできるだけ地域の人々の目に触れるようにする、分かりやすく丁寧な言



→大阪へ出てからも祭りには帰郷していた
(25歳頃。前が私)

←現在は港区内の2カ所で自転車店を営む(写真は三元2丁目の「港エース」で妻と)



葉で商品を説明する、また無料でタイヤの空気入れを貸してあげる。これは開業時の私自身のアイデアで、恐らく港区では初めての試みだと自負しています。なにより直接の金にはならなくても実際に役立ち喜んでくれるお客様もたくさんあります。提供することによって心がけています。これからは厳しい状況に変わりはしないでしょうが、地域の皆さんに喜んでいただけるよう、真面目にきちんとやっておれば、潰れることはない、食っていくのやろうと思っています。

◆ぜひ頑張ってください。大阪へ出てからの故郷との関わりは大切にしたいな。

若い頃は仕事が忙しかったことや、また都会暮らしが楽しいこともあって、ほとんど帰りませんでした。が、歳をとり、五十の声を聞いた頃、ちょうど明石海峡大橋が開通したこともあり、年に四〜五回は帰るようになりました。盆・正月はもちろん、五月の祭り、それに釣りなどが帰郷の目的で、それぞれ三日ほど滞在します。

生家は先に話したように小学一年生の時に「沼島大火」で焼け、それ以後は家族で公営住宅に移り住みましたが、その後、元の住所地に家を再建し、両親と共に八十二歳で他界したあとは、三番目の兄が漁師を継ぎながら一人で暮らしています。



↑今は町で漁業を営む三元

◆そんな島での往復を重ねながら感じるのとはどんなところですか？

やはり、かつての活気が年々失われつつあるところですわ。私が子供の頃は人口も二千五百を超えていましたが、今では五百前後。特に陽が落ちると、外で人影を見ることはほとんどありません。

それでも五月三、四日に行なわれる祭りは年に一度、観光客の訪れもあって昔以上に活気があります。十数人の若い衆が神輿を砂浜から海へ担ぎ込み、波打ち際でしびきを立てながら練り歩く様は実に勇壮です。機会があれば読者の皆さんもぜひ観光に訪れて下さい。

◆私も行きたいです。沼島への交通は？

淡路島から沼島汽船を利用します。洲本港とは火・木・土のみ週三往復し、所要時間は五十分。土生港とは一日十往復し、所要時間は十分です。和歌山下津港や徳島小松島港など本土との直接の便はありません。

◆同窓会は開かれていますか？

小学校も中学校も同じ校舎、同じクラスだったので、同窓会も同じ顔ぶれで、今も一年に一

度、市内で開いています。企業に勤めたり、私のように店を営んでいたりと境遇は様々ですが、同級生二十数人のうち必ず三十人は集まります。あの「町民大運動会」など島での懐かしい思い出話に花が咲きますが、嬉しいことに、そのつと新たな発見があります。というのは、当時は皆が貧しく、お互い言つに言えない恥ずかしさや悩みを抱えていたので、「そうか、お前も辛かったんか」とか「お前がそんな風に思ってた



→一年に一度沼島へ島の祭りの五月三日、四日。
若衆に担がれた神輿が浜に入る様は壮観だ

とは思わなかった」などのやり取りが交わされるからです。同じ場所でも同じように少年期や思春期を過ごしても、覚えていること、感じていたことはそれぞれ違つていふことに改めて驚かされます。

◆なるほど。集まりがマンネリになるとはいわからないうえしょうね。とすると奥さんとは故郷の話をされますか？

妻は港区磯路に生まれ育つたので、今言つたように沼島と港区を行き来する私を見て、「故郷があるって、いいね」と羨ましがります。長男は仕事で茨城県へ赴き、長女は他家へ嫁ぎ、一緒に暮らすのは次女だけとなりましたが、それでも、都会でのこのささやかな幸せに加えてもう一カ所帰る所があるというのは、何と云つても、ホッとする安心感があり、温かく、実に良いものだと思つています。

◆分かります。温かな故郷のお話をいへるもありがよいですね。いわから第1の故郷港区との往復を繰り返しながら、仕事で、家庭で、地域で活躍されることを期待しています

（「故郷の話をしよう」の語り手募集中）

平和のため



語り継ごう

今月の語り部

もりがみ ゆきしげ

森上行茂さん（78歳 八幡屋 ㊦）



（前編まで）昭和9年、西区に生まれた私は日

中戦争から日米戦争へと戦火が広がる中、厳しい学校生活と疎開を体験。20年3月の大阪大空襲では我が家を焼失したが生き延び、徳島へ疎開。そして8月15日、終戦の知らせが―

終戦に悔し／悲し／

戦後は鮮魚卸で日本の復興担う

結局、私たちは疎開先・徳島の山中で八月十五日の終戦を迎えました。ラジオがなかったので、役場からの知らせを誰かが伝えてくれたよつでした。先生や親から「最後は神風が吹いて、日本は必ず勝つ」と教えられていたので負けたことが信じられず、悔しくて堪りませんでした。また、そんな田舎にまで米軍は進駐し、機関銃をこれ見よがしに撃ちまくって村人を威嚇しているのを見て、腹が立って仕方ありませんでした。戦争といふものの非情さ、悲惨さ、哀しさを全身で感じ取った八年生の夏でした。

◆戦時下で温かな交流も

その一方で、戦争中にもこんなことがありました。たしか戦局がそう深刻ではなかった頃、同じ西区阿波座の町内で朝鮮半島から来た男性が窃盗が何かで逮捕・投獄された時、西警察などとも付き合ひのあった父は「何か苦しい事情があったんやろ」朝鮮人でも同じ町内の「島や」

と同情し、八方手を尽くして保釈を実現させたのです。釈放された男性はよほど嬉しかったのでしょつ、統制経済の中であつて手に入れたのか、驚くほどたくさん魚を我が家へ届けてくれました。この出来事は、戦時下での民族を越えた交流として今も私の心に残っています。

◆戦後は鮮魚卸の仕事に

戦後、私は小学校から高等小学校へ進みましたが、その途中の昭和二十一年（一九四七）年には新制中学となり、同二十四年春に卒業しました。その間、終戦直後の混乱もあつて勉強らしい勉強をした記憶がありません。卒業後は、うどん屋などの職場を転々とした後、昭和二十五年五月、中央市場の鮮魚卸会社に就職。二十五年間勤めたあと、同じ職種で会社でまた五年働き、そのあとは三十年間、鮮魚卸業を自営。微力とはいえ約六十年間、日本の復興をこの面から支えてくれたのではないかとと思っています。廃業後は少しの間、居酒屋を営んだりして現在に至っています。

この間に、父は昭和二十一年八月に五十五歳で他界。同二十三年には、父が市岡元町の市岡

洋服店の主人と懇意^{こんい}だったことから港区朝潮橋

の仮設住宅に転居。昭和二十五年にはジエーン

^{ういふ}

台風に遭遇。同二十七年には区画整理事業（地

上げ）でまだ砂地だった八幡屋の現住所地に移

転。母は昭和二十八年五月に他界。その翌年十

一月、現在の妻・孝子^{たかこ}と見合い結婚しました。

◆妻にも戦争体験が

妻は昭和十三年一月、大阪市福島区野田の

^{しょうてんとわのり}

聖天通商店街の紳士服仕立職人の家に生ま

れました。六人兄弟姉妹の第三子（次女）でし

た。昭和二十年、国民学校一年生の時に福井県

^{みかた}

三万郡へ疎開し、食料不足から薩摩芋ばかり食

^{さつまいも}

べていたそうですが、その際に大阪の家を空襲

で失いました。



→戦後は妻と音楽を共にしながら家庭を築き、

日本の復興に微力を尽くしてきた（上は新婚

旅行先の熊本で、中は旅行先で、下は近影）

◆ボランティア慰問を続ける

^{くわん}

その妻とは音楽を共にしながら男女二人の子

を育て、ささやかながらも人並みの幸福な家庭

を築くことができたと思っています。今は厚生

年金で暮らし、孫も三人います。そんな中、平

成十九（二〇〇七）年一月には私たちと同じよ

うに戦争や闘病など人生の様々な危機を乗り越

えてきた地域の人たちと「絆会」というボラ

ンティアグループを立ち上げ、以後、老人介護

施設などへ年数回の芸能慰問^{いもん}を続けています。

歌や踊りを心から喜ばれる入居者の素朴な姿に

こちらが逆に元気をもらっているほどのです。そ

ういつ私自身、昨年は大腸癌^{がん}を患い、十月に

入院して手術で除去し、抗癌剤治療^{くわがんざい}を続けなが

ら活動再開の機を窺^{うかが}っています。

◆戦争くぐった高齢者を大切に

八十年近い人生を振り返って思うのは、戦争

ほどえげつないものはない、一度と国民をあの

ような悲惨な目に遭^あわせてはいけないといつも

とです。そして今の政治家に言いたいのは、二

十年先、三十年先のことよりも今を大切にしてい

ほしい、特にあの戦争を潜^{くぐ}り抜け、戦後の混乱

←平成19年から続けている絆会の慰問活動



を乗り越え、懸命に働いて今日の日本^{にっぽん}を築いた

高齢者をこそ大切に扱ってほしいということと

です。そんな気持ちも込めて、これから慰問活

動は続けていくつもりですが、その際、あの少

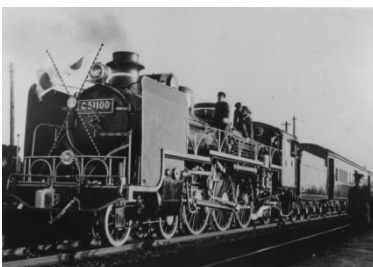
年期の過酷な空襲体験と同じように、現在の苦

しい闘病経験も、そつたした活動のエネルギーに

変えていければと思っています。（終わりの

ミニミニ案内

●交通科学博物館企画展「**画**かれた鉄道く**錦**」
 えが きた ひろゆき た ちよつかず
絵・引札・双六・鳥瞰図の中の鉄道 景色
 や人物、物などを人に伝える「錦絵」「引札」「鳥瞰図」などから、鉄道や乗り物をモチーフに描かれた明治初期～昭和中期の作品を一堂に紹介。三月十六日～五月十六日▽他に「関西大学鉄道研究会」真展『よみがえるあの時代』(国鉄や京都市電などの風景の今昔を比較。三月二十四日まで)「こつはくスプリングフェスタ」(ものまねライブ、トークショー&クイズ、映画会などの春休みイベント。三月二十三日～二十四

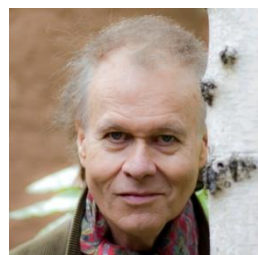


→「森ノ宮電車区探検」セミナー④と「おろし列車と真寶室」展示真(〇51100)④

三十、三十一日、四月六、七日「森ノ宮電車区探検!」(環状線基地を見学するセミナー。三月二十九日)「おろし列車と真寶室」(皇族が乗る車両に関する資料を展示。七月七日まで)「ミニ500系新幹線運転会」(山陽新幹線のミニサイズ運転会。三月二十三日～二十四日)などの催しも▽十七時入館、月曜休館(祝日なら開館し翌火曜休、火曜も祝日なら振替休なし)。高校生以上四百円、四歳～中学生五百円。JR井天町駅すべ。☎六五八一・五七七二。

●関西フィルハーモニー管弦楽団「いずみホールシリーズvol.30」 「コンセル・デュメイ&メルシエ・ショーンソンの夢幻」と題し、同楽団音楽監督オーギュスタン・デュメイと真上(©T・DAGUZAN)の母国フランスからの風を贈る。豊かな芸術性を誇る美力派エレーヌ・メルシエと写真家デュメイの招きで初登場。デュオによるドビュッシー「ヴァイオリン・ソナタ」でスタート。ショーンソン「コンセル」はフランスの知られざる傑作。弦楽合奏を雄渾にリードし、夢幻の世界へ。締めくく

くりはデュメイ得意のナンバー、モーツァルト



の可憐なシンフォニー「第29番」。演奏曲は、
 ①ドビュッシー「ヴァイオリン・ソナタ」短調
 ②ショーンソン「ヴァイオリン、ピアノと弦楽合奏のための協奏曲(コンセル)」二長調 作品2
 ③モーツァルト「交響曲第29番」イ長調 K.201。四月二十一日(日) 十五時からいずみホール(JR環状線「大阪城公園駅」徒歩五分)地下鉄「大阪ビジネスパーク駅」徒歩十分)で。S席五千円、A席三千五百円(全席指定・消費税込)。無料託児サービスあり(申込締切四月六日、先着二十名) ☎六五七七・一三八一。
 ●関西フィルとともに歩む会「15周年記念コンサート」 井天町を拠点に活動する関西フィルハーモニー管弦楽団を応援する市民グループによる総会を兼ねたコンサート。十分間ほどの総会の後、第一部はスペシャル企画「演奏者によるワークショップ」、第二部は「弦楽四重奏+

ファコットによる「コンサート」。同楽団メンバーが「さへら」「荒城の月」など日本の名曲やパッフェルベル、ドゥヴィエンス、ハイドンなどを演奏。四月七日(日) 十四時からオークホール(弁天町オーク2番街西館八階)で、高校生以上千八百円、中学生以下八百円。乳幼児入場不可。要電話予約。☎六五七四・七七五六立。

●港図書館 ①みんなに人気の絵本で遊ぼう

三月二十日(水祝)十五時半〜十八時半、じゅうたんコーナーで、「One Book One OSAKA」の投票で人気のあつた絵本の読み聞かせ、パネルシアターなど、「絵本の会みなこ」による「おたのしみ会」。幼児から小学生。申込不要。先着二十名②三図書館展示「図書館に寄贈していただいた時代小説文庫本」展 二月三十一日(日)まで開催中。時代小説は近年、人気作家シリーズなどの予約も多く年配者を中心に人気。寄贈者へ感謝を込めて③図書館展示「あなたにこの本を」展 四月二十日(火)まで開催中。市立図書館が購入した新刊本から図書館おすすめを紹介。☎六五七六・二三四六。

●弁天町市民学習センター「こっぴん」のつた

こっぴんのつた 『春』を謳つ 次世代へ歌い継ぎたい日本の歌を、背景やエピソードを学びながら楽しむ「シリーズ・レクチュア・コンサート」

第一回は、春から初夏にかけての歌の数々。出演はソプラノ：小梶史絵、バリトン：橘茂、ピアノ：金岡優子。企画・構成・司会は大田道宏関西フィルハーモニー管弦楽団チエロ奏者。曲目は「春の小川」「朧月夜」「茶摘」「背くらべ」他。四月十九日(金) 十九時から同センター講堂で。料金は一般千五百円(前売千五百円)、小・中学生八百円。定員百二十名(先着順)。申込は①同センターでチケット購入②電話予約③インターネット予約のいずれかで。詳細は☎六五七七・一四二〇同センターへ。

●ガットネロ 市岡在住の社会派シャンソン歌手・松浦田美子さん「写真上」主宰の音楽喫茶。

毎月様々な企画。①HAMORIBEE(はも



りべ)のつた★カフェ第二回 四月十八日(木)

十五時、十九日(金) 十五時(完売)、十九時。

若手テノールデュオ(中川公志・小原有貴) 写真上 日本懐かしい歌を歌う(ピアノ：古谷優子)。

会費各千五百円(一飲物付、定員十五人、要予約) ②クラシック・カフェ第二

十一回 ①ピアノ(ソロ&連弾)で綴る「ウィーン音楽の彩」と題し、田所士恵(ピアノ

十宮崎剛(ピアノ)がベートーヴェン、ブラームス、シユトラウスなどを演奏。四月五日(金)

十九時。会費千円(定員十五人、要予約)

③こもれびカフェ第七回 久保比呂誌(ピアノ、津軽三味線)が後藤ミホコ(アコーディオン

と異次元ライブ。四月十四日(日) 十五時。

会費二千円(一飲物付)▽ガットネロは天王寺

区上本町六・二・三七、地下鉄谷町九丁目駅①

出口、☎六七六七・〇〇二。

●シネ・ヌーヴォ『津波のあとの時間割』右巻。

門脇小・1年の記録』あの日、東日本太平洋

沿岸の多くの学校が津波に襲われ、石巻市立

門脇小学校も壊滅的な打撃を受けた。児童三

百人のつち七名が犠牲になり、校舎は津波と火

災のわき

門脇小学校も壊滅的な打撃を受けた。児童三

百人のつち七名が犠牲になり、校舎は津波と火

災のわき



災で使用不能、地域(校区)もそのほとんどが荒地と化した。四月、同校は高台にある門脇中学校に間借りして新学期を迎えた。そこには震災と向き合う子供たちの姿があった**「写真は一場面」**。震災後の六月からカメラを据えて一年。教室と地域、子供と大人の再生の日々を、石巻の四季と共に織り上げた作品。二五分。青池憲司監督。上映は三月十八(月)と二十日(金)の十時四十分と十一時四十五分と、三月十三(土)と十九日(金)の十一時四十五分と十三時五十分。当日一般千二百円。詳細は同館(地下鉄九条)出口歩三分、**☎六五八一・二四二六**へ。

●光と影くガラスアートナカイグループ「ガラスアートNAOM生徒作品展」 伝統の京都

手描き友禅手糸目技法を応用し、三原色を基本に竹串で色遊びを楽しむガラスアート。ガラス特有の透明感、幻想感を楽しめる。港区を中心に活動するNAOM教室の生徒作品を一堂に。三月二十五日(月)と四月四日(木)の九時十七時に港区役所一階「港区民ギャラリー」で(土日休)。鑑賞無料。問い合わせは金元奈保美さん(磯路2、**☎六五七六・二三四**)まで。

●町の画家の個展 田中二丁自在住の隠れた画家・濱崎和則さん

家・濱崎和則さんが、長年描きためた風景・人物・静物などの油絵を展示。三月十一日(月)と十九日(火)の九時十七時に港区役所一階「港区民ギャラリー」で(土日休)。鑑賞無料。問い合わせは田中二丁目東町会会長・木村良雄さん(田中一・三・三、**☎〇八〇・三七七六・六一二八**)まで。

●ガレリア・リバリア「満天星作展」みなと通の画廊「ガレリア・リバリア」

「写真上」のアトリエで絵を学ぶ生徒たちの風景画などを一堂に。四月六日(土)と十四日(日)十一時

十八時。ガレリア・リバリアは平和の願いをキヤンバスに込めて絵画人生を送ってきた八幡屋の川島恵美子さん(ハニ)が二〇一二年十一月オープン。三先一・三三・一八(みなと通沿い、地下鉄朝潮橋駅すぐ)、**☎七五〇・一四二八**。



●ギャラリーはたなが「春の絵本展」一つの

「春物語」を二人の作家(田伏七恵さんと池田はり果さん)が違つ表現で描いた、子供から大人まで楽しめる展覧会**「写真下(展示作品から)」**。三月十日(水)と三十一日(日)の十一時十九時(最終日は十七時まで)。ギャラリーはたなかは磯路二・一・一五(みなと通、港区役所向かい)、**☎八五七・一・五四六(事務所、☎六五七・一五八九七(展示場))**。

※47、48頁「緊急投稿 赤バスありか」と
「田中道雄」の「緊急投稿」を参照。
「」